

構造設計標準仕様

・適用は ☒ 印とする。

1．建築物の構造内容

1－1 構造種別☒ 鉄筋コンクリート造（RC）☒ 鉄骨造（S）☒
☒ 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）☒ 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）

1－2 階 数 地上 2 階：地下 0 階：塔屋 0 階

1－3 屋上付属物☒ 広告塔☒ 高架水槽（ kN）☒ 煙 突☒ キューピクル（ kN）

1－4 増築計画☒ 無☒ 有（ ）

1－5 特殊荷重☒ エレベーター（ 人乗：☒ ロープ式☒ 油圧式 ）
☒ エスカレーター☒ リフト（ kN）☒ 受水槽（ kN）
☒ クレーン（吊荷重＝ kN）☒ 倉庫積載荷重（ N/㎡）

1－6 その他☒

2．各種の書類、報告書等

※ 工種別に示す試験報告書を提出すること。事前に試験計画書を提出し承諾を受けること。

2－1 提出書類等（その他の提出書類等は工種別に示す。）
☒ 施工図（躯体図等）
☒ コンクリート配合計画書 ☒ コンクリート工事の施工計画書
☒ 鉄骨製作工場の承認願い ☒ 鉄骨工事の施工計画書（「共仕」に掲げるもの。）
☒ その他（ ）

2－2 証明証を要する技能士（氏名、資格内容及び証明証の認定機関名を提示する。）
☒ 該当する工種
☒ 監督職員が特定する技能士
☒ その他（ ）

2－3 工事記録の提出（内容は、施工の記録、工事写真、見本等とする。）
☒ 工事の施工によって隠べいされるなど、後日の目視による検査が不可能又は容易でない部分の施工を行う場合。
☒ 一工程の施工を完了した場合。
☒ 施工の適切なことを証明する必要があるとして監督職員の指示を受けた場合。
☒ 設計図書に定められた施工の確認を行った場合。
☒ その他（ ）

2－4 材料等の証明書の提出
☒ 杭 ☒ 安定液、根固め液及び杭周辺固定液 ☒ 建築用コンクリートブロック
☒ 鉄筋 ☒ 鉄筋継手金物 ☒ 溶接金鋼 ☒ ALCパネル
☒ 鋼材 ☒ 高力ボルト ☒ 普通ボルト ☒ 溶接棒、ワイヤ、ブラックス
☒ スタッド ☒ アンカーボルト ☒ デッキプレート ☒ 特殊金物
☒ 錆止め塗料 ☒ ターンバックル ☒ ターンバックル用ボルト
☒ セメント ☒ 混和材料等 ☒ 骨材 ☒ 地盤改良に関するもの
☒ 無収縮モルタル材について製造所の証明書 ☒

2－5 設備機器等の設置
☒ 構造体を貫通する配線・配管等は、事前に監督職員の承諾を得ること。
☒ 地中に埋設するもの、又は構造体に打込む配線・配管等は、事前に監督職員の承諾を得ること。
☒ 設備機器、工作物、その他の部位の設置は、事前に監督職員の承諾を得ること。
☒ 建物に付随する旗竿、門扉等で、自重を有するもの、又は風圧を受けるもの、積雪荷重を受けるものを施工する場合は、事前に監督職員の承諾を得ること。
☒ 承諾は、施工計画書に必要とする施工図等を添えてたものを原則とする。

3．使用構造材料

3－1 コンクリート

適用箇所	種 類	設計基準強度 Fc(N/㎡)	スランプ (c m)	水セメント比 (%)	備 考
捨コンクリート	普 通	1 8	1 5		
ラブルコンクリート	普 通	1 8	1 5		
土間コンクリート	普 通	2 1	1 8	6 0	
土間コンクリート	普 通	3 0	1 8	6 0	※基礎と一体で打設する場合
躯体	基礎～最上部	普 通	3 0	1 8	6 0
	普 通				
増設躯体	普 通				☒ 膨張材

※ スランプは共仕（H2 5）の表6. 2. 1、6. 5. 1による。
※ 単位水量最大値：1 8 5 kg/㎡ ※ コンクリート中の塩化物イオン量：0. 3 0 kg/㎡ 以下
※ 単位セメント量最小値：2 7 0 kg/㎡
※ 水セメント比の最大値：普通ボルトランドセメント及び混合セメントのA種6 5％、高炉セメントB種6 0％
※ 所要空気量：4. 5％（A E 剤、A E 減水剤又は高性能A E 減水剤を用いるコンクリート）
※ コンクリートは、アルカリ骨材反応を生じずおそれのないもの。

3－2 高性能無収縮材

材 料	材 質	強度(N/㎡)	備 考
無収縮グラウト材	☒ 非金属材料系 ☒ 金属材料系		
無収縮モルタル材	☒ 非金属材料系 ☒ 金属材料系		
構造体用モルタル材	☒ 非金属材料系 ☒ 金属材料系		

3－3 建築用コンクリートブロック

種 別 ☒ A種 ☒ B種 ☒ C種
厚 さ ☒ 100 ☒ 120 ☒ 150 ☒ 200

3－4 鉄 筋

項 目	種 類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	☒ SD295A	D 1 0～D 1 6	すべて	☒ 重ね継手 D 1 0～D 2 2 ※D 1 9～D 2 2 は基礎のみ対象
	☒ SD345	D 1 9～D 2 5	柱、梁、基礎	
	☒ SD390	D 2 9	柱、P C 梁	☒ ガス圧接継手 D 1 9 以上 ※基礎除く
	☒			
丸 鋼	☒ SR235			
溶接金鋼	☒ J I S G 3 5 5 1			☒ 特殊継手

3－5 鋼 材

種 類	使用箇所	種 類	使用箇所	種 類	使用箇所
☒ SN400A		☒ SS400		☒ BCR295	
☒ SN400B		☒ SM490YA		☒ BCP235	
☒ SN400C		☒ SM490YB		☒ BCP325	
☒ SN490B		☒ SSC400		☒ STKN400B	
☒ SN490C		☒ SUS304		☒ STKR400	
☒		☒		☒ STK400	

3－6 ボルト等（特殊柱脚のアンカーボルトはメーカー仕様による。）

項 目	種類及び強度区分等	項 目	種類及び強度区分等
☒ 高力ボルト	☒ F10T ☒ SUS10T	☒ スタッド	☒ 頭付きスタッド
	☒ S10T ☒ F8T	☒ ターンバックル	☒ J I S A 5 5 4 0
☒ 普通ボルト	☒ 4T ☒	☒ 鉛直ブレース	☒
☒ アンカーボルト	☒ ABR400 ☒ SS400	☒ 水平ブレース	☒
	☒ ABR490 ☒	☒ あと施工アンカー	☒ 金属拡張アンカー
ナット	☒ ダブル ☒ シングル		☒ 接着系アンカー

3－7 その他

項 目	メーカー仕様書	備 考
☒ ALCパネル	☒ 有 ☒ 無	
☒ 合成スラブ用デッキプレート	☒ 有 ☒ 無	
	☒ 大臣認定	
☒ 耐火仕様		
	☒ デッキプレート	☒ 有 ☒ 無
☒ フラットデッキプレート	☒ 有 ☒ 無	
☒ 特殊柱脚（ハイベースネオ）	☒ 有 ☒ 無	
☒ 特殊仕口材	☒ 有 ☒ 無	
☒	☒ 有 ☒ 無	

4．地 盤

※ 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合がある。

4－1 地盤調査資料 ☒ 有（☒ 敷地内 ☒ 近隣）☒ 無
☒ 標準貫入試験 ☒ スウェーデン式貫入試験 ☒ 平板載荷試験 ☒ 液状化試験
☒ 孔内水平載荷試験 ☒ 物理的性質試験（比重、粒度等）
☒ 力学的性質試験（圧密、一軸等）

4－2 地盤調査計画 ☒ 無 ☒ 有

調査計画の内容

5．地業工事

5－1 直接基礎 ☒ 支持層の地質（ 玉石混り砂礫層 ）
☒ 底盤の位置 設計G L－2. 55～4. 1 0 m☒ 長期許容支持力 250 kN/㎡
☒ 試験掘り け所（ ☒ 立会い ） ☒ 地盤の確認
☒ 載荷試験 ☒ 有 ☒ 無し

5－2 杭基礎

既 製 杭		場所打ちコンクリート杭	
杭 種	種 別	材 料	施 工 法
☒ PHC ☒ A 種 ☒ B 種 ☒ C 種 ☒	☒ ST ☒ A 種 ☒ B 種 ☒ C 種 ☒	☒ コンクリート	☒ アースドリル
		F c = N/㎡	☒ BH工法
☒ SC	板厚 t = mm	☒ 鉄筋	☒ リバース
☒ PRC	☒	主筋 S D	☒ オールケーシング
☒ 節付杭	☒	帯筋 S D	☒ 深礎
☒ 鋼管	☒ STK400 ☒ STK490		☒
☒			☒

5－3 既製杭の施工法

☒ 埋込み工法（ ☒ 回転圧入工法 ☒ 認定工法 ☒ ）
☒ 打込み工法（ ☒ プレボーリング併用打撃工法 ☒ ）

プレボーリング工法		中掘り工法	回転工法
☒ 最終打撃工法 ☒ 根固め工法（セメントミルク） ☒ 拡大根固め工法 ☒ Hyper-MEGA工法	☒	☒ 打撃工法	☒ 根固め工法
		☒ 根固め工法	☒
☒	☒	☒ 拡大根固め工法	☒
		☒	☒

5－4 杭径と支持力（杭長さ等は図面に記載する。）

杭 径（mm）	設計支持力（k N／本）	杭 径（mm）	設計支持力（k N／本）

☒ 杭の載荷試験 け所（ ☒ 鉛直 ☒ 水平 ）
☒ 試験杭 本 ☒ 試験掘り 本 ☒ 試験杭又は試験掘りの立会い

5－5 特殊基礎工法

☒ 地盤改良工法 ☒ ラブルコンクリート ☒

5－6 床下防湿層

※ 適用及び範囲は特記による。

5－7 提出書類等

☒ 地業工事施工計画書 ☒ 地業工事施工記録報告書 ☒ ソイルセメント強度発現報告書
☒ 施工後の杭芯確認図 ☒ 根固め液の強度発現報告書

6．鉄筋工事

☒ 鉄筋引張試験（鉄筋材料試験）（ ☒ 全ての鉄筋 ☒ ）
※ 試験回数は、種類、製造ロット及び径の異なるごとに、かつ、質量2 0 t以下は1回、2 0 tを超える場合は2 0 tごと及びその端数につき1回とし、機械的性質の試験体は1回の試験につき3体とする。

☒ 配筋検査 ☒ ガス圧接部外観検査（全数）
☒ ガス圧接部の第三者による超音波探傷試験（ ☒ 全圧接部 ☒ 径、本数 ）
※ 1 ロットに対し3 0 箇所とし無作為に抜き取る。
数に満たない場合は全数とする。1 ロットとは1 組の作業班が1 日に行った圧接箇所とする。
以下、ロットの扱いは同じ。試験は第三者検査とし「8．鉄骨工事」の8－3 備考と同じ。

☒ ガス圧接部の引張り検査（ ☒ 現場抜き取り ☒ ）
※ 検査対象（ ☒ 全ての圧接鉄筋 ☒ 径、本数 ）
※ 現場抜き取り採取で、種類、径の異なるごとに1 ロットに対し3 本とする。

☒ 特殊継手施工後の引張試験（ ☒ ）
☒ （一社）茨城県建築士事務所協会認定の優良鉄筋施工業者による施工とする。

7．コンクリート工事

7－1 レディミクストコンクリートの種別
☒ I 類（JIS Q 1001 認証工場のJIS A 5308 適合認証コンクリート）
☒ 躯体 ☒ 土間コンクリート ☒ 捨コンクリート
☒ II 類（上記以外のJIS A 5308 に適合したコンクリート）
☒ 躯体 ☒ 土間コンクリート ☒ 捨コンクリート

7－2 材料
☒ セメント ☒ ボルトランドセメント ☒ 高炉セメント
☒ シリカセメント ☒ フライアッシュセメント
☒ 粗骨材 ☒ 工場標準化品 ☒ 砂利 ☒ 砂利＋砕石又は高炉スラグ
☒ 細骨材 ☒ 工場標準化品 ☒ 砂
☒ 砂＋高炉スラグ細骨材 ☒ 砂＋フェロニッケルスラグ
☒ 混和剤 ☒ 工場標準化品 ☒ A E 剤 ☒ A E 減水剤
☒ 高性能A E 減水剤 ☒ 流動化剤
☒ 混和材 ☒ フライアッシュ ☒ 高炉スラグ微粉末 ☒ 膨張材
☒ 躯体防水混和材

7－3 試し練り（ ☒ 行う ☒ 行わない ）——ただし、I 類コンクリートの場合は省略可も。
☒ 試し練りは躯体に使用するコンクリートを対象とする。
☒ 強度及びスランプが異なる全部について行う。
☒ F c = N/㎡、スランプ cm について行う。

7－4 試験
☒ 供試体の採取
☒ 普通コンクリートの場合は、種類が異なるごとに1 日1 回以上、
かつ、1 5 0 m³ ごと及びその端数につき1 回以上。
☒ 軽量コンクリートの場合は、種類が異なるごとに午前と午後それぞれ1 回以上、
かつ、1 0 0 m³ ごと及びその端数につき1 回以上。
☒ 1 回当りの供試体の数
☒ 調査強度の管理試験用 3 個以上
☒ 材齢2 8 日用 3 個以上 ☒ 材齢9 1 日用 3 個以上
☒ 型枠取外し時期決定用 3 個以上
☒ その他（ ） 3 個以上
※ 水中養生は直射日光を避け、養生温度をできるだけ建物等に近い条件になるようにする。
※ 標準養生のための供試体は規定により製造工場の責任において別途採取養生とする。
☒ 塩分試験

7－5 施工計画書及び仕上り
☒ 施工計画書には下記事項を明記する。
☒ 呼び強度 ☒ 打設数量 ☒ 打設順序 ☒ 作業分担と人員配置数
☒ 圧送車の配置とミキサー車のシュート洗浄位置
☒ 使用するバイプレーターの種類と台数 ☒ 工場から現場までの運搬経路
☒ コンクリート打放し仕上げの程度
☒ A 種 ☒ B 種 ☒ C 種

7－6 型 枠 ※ 打放し用型枠の施工範囲は図示による。

材料	☒ 一般用	☒ 合板 厚1 2 mm	☒ 合板 1 2 mm 塗装品	☒ 鋼製 ☒ ボイド
	☒ 打放し用			☒
	☒ その他	☒	☒	☒

☒ 型枠最小存置期間

施工箇所		基礎、梁側、柱、壁		
せき板の最小存置期間	セメントの種類	早強ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント	混合セメントB種
	セメントの平均気温	2	3	5
		3	5	7
コンクリートの材齢による場合（日）	1 5℃以上	2	3	5
	5℃以上	3	5	7
コンクリートの圧縮強度による場合	0℃以上	5	8	1 0
	——	圧縮強度が 5 N/㎡ 以上となるまで。		

施工箇所		ス ラ ブ 下		梁 下
支柱の最小存置期間	セメントの種類	早強ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント 混合セメントのA種	左記のすべてのセメント
	セメントの平均気温	2	3	
		3	5	
コンクリートの材齢による場合（日）	1 5℃以上	8	1 7	
	5℃以上	1 2	2 5	
コンクリートの圧縮強度による場合	0℃以上	1 5	2 8	
	——	圧縮強度が設計基準強度の8 5％以上又は1 2 N/㎡ 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。		圧縮強度が設計基準強度以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。

※ 型枠の取外しは、型枠の最小存置期間を経た以後に行う。

※ 型枠の最小存置期間は、前述の表により、コンクリートの材齢又はコンクリートの圧縮強度により定める。なお、圧縮強度により定める場合は、コンクリートの試験結果及び安全を確認するための資料・計算書を監督職員に提出して承諾を受ける。

また、寒冷のため強度の発現が遅れると思われる場合は、圧縮強度により定める。

※ 片持梁、ひさし、長大スパンの梁、大形スラブ等の型枠を支持する支柱、又は施工荷重が著しく大きい場合の支柱等は、必要に応じて存置期間を延長する。

※ 支柱の盛替等は行わない。スラブ下及び梁下のせき板は原則として支柱を取り外した後に取り外す。

8．鉄骨工事

8－1 事前に監督職員の承諾を要するもの。
☒ 製作工場の認定（大臣認定 グレード以上） ☒ 社内検査表
☒ 鉄骨製作管理技術者資格証明書 ☒ 溶接技術者の証明書

8－2 工事監督職員が立会う検査・試験
☒ 現寸検査 ☒ 中間検査（組立・開先） ☒ 製品検査 ☒ 材料試験（図示による）
☒ 建方検査 ☒ 高力ボルト摩擦接合 ☒ 溶接に対する技量付加試験（図示による）

8－3 溶接部の検査

検査箇所	検査方法	検査率または検査数		
		社内	第三者	工事監理者
☒ 突合せ溶接部 ☒ ☒ ☒	☒ 超音波探傷試験	☒ 「共仕」 ☒ J A S S 6	☒ 「共仕」 ☒ J A S S 6	☒ 「共仕」 ☒ J A S S 6
		☒ 1 0 0 %	☒ 3 0 %	☒ 第三者検査時立会い
	☒ 外観（目視）検査 ☒ マクロ試験・その他	☒ 1 0 0 %	☒ 3 0 %	☒
		☒ 個	☒ 個	☒ 個
備考	第三者（検査機関）とは、建築主、工事監理者または工事施工者（鉄骨工事施工者以外）が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。			

☒ 現場溶接部（完全溶込み溶接部）は、原則として第三者検査機関による全数検査を行う。
☒ 超音波探傷試験の第三者検査機関は（社）日本溶接協会（C I W）認定業者によることを原則とする。
☒ 高力ボルト接合摩擦面の処理は、すべり係数値が0. 4 5 以上確保できるようミルスケールを平グラインダー掛け等により座金外径の2 倍以上の幅を除去したのち、一様に錆を発生させたものとする。ただし、ショットブラスト又はグリットブラストにより摩擦面の表面粗度を5 0 μ m R z 以上確保でき、監督職員の承諾を受けた場合は錆の発生を要しない。
☒ 高力ボルトの締め付けに使用する機器類はよく点検・調整されたものとする。締め付けの順序は部材が十分密着するように1 次締め、マーキング及び本締めの順で行う。
☒ 締め付け後の検査は、各ボルト種類・締め付け工法別に適切な締め付けが行われているか確認検査を行う。
☒ 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。

8－4 柱底均しモルタル
☒ 無収縮モルタル ☒ モルタル（砂：セメント＝2：1）

8－5 スタッド溶接及びデッキプレート溶接
☒ スタッド溶接部の検査・試験（ ☒ 外観検査（全数） ☒ 打撃曲げ試験 ）
☒ 合成スラブに用いるデッキプレートの溶接（ ☒ 焼抜き栓溶接 ☒ スタッド溶接 ☒ ）

8－6 錆止め塗装及び溶融亜鉛めっき工法
☒ 錆止め塗装をしない部分は、高力ボルト接合の摩擦面、コンクリートと一体になる部分
現場溶接を行う部分の両側1 0 0 mm程度の範囲及び超音波探傷試験に支障を及ぼす範囲、その他監督職員の指示する部分とする。耐火被覆を行う部分の塗装は、特記による。
☒ 錆止め塗装 ☒ J I S K 5 6 7 4 2 回塗り ☒ J I S K 5 6 2 1 2 回塗り
☒ 胴縁及び母屋等（SSC400）は、J I S K 5 6 2 1 2 回塗り

☒ 溶融亜鉛めっき工法の材料・工法・高力ボルト摩擦面の処理等は、特記による。

8－7 耐火被覆
☒ 耐火被覆は特記による。
☒ 工事終了後、定められた方法により試験を行い、監督職員の確認を受けること。

8－8 その他
※ 空気の滞留、及び水溜りが予想される部

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1. 加工及び組立

鉄筋の表示	鉄筋の表示							
	丸鋼	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ	28φ
	異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
表示			X	φ	●	○	○	⊗

1-0 一般事項

- 鉄筋は、設計図面に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。
- 異形鉄筋の径 (「d」で示す) は、呼び名に用いた数値とする。
- 有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋は、使用しない。
- ロール状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
- 鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アークストライクを起こしてはならない。
- 鉄筋の切断は、シャッカー等によって行う。
- 鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径 0.8mm 以上の鉄線で結束し、適切な位置にスベーサー、吊金物等を使用し行う。なお、スベーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスベーサーは、原則として、鋼製とする。また、鋼製のスベーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。
- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手又は溶接継手とし、適用は特記による。
- d16以下の細径鉄筋の溶接は、重ねアーク溶接とし、溶接技能者は、鉄骨工事の溶接接合【技能資格者】に準じ、工事に相当した技能を有する者とする。
- 設備配管、スイッチ等の設置により、設計図面に定める配筋ができない場合は、監督職員と協議する。

1-1 鉄筋の折曲げ

折曲げ 角 度	折曲げ図	折曲げ内法直径 (D)		
		SD295A, SD295B, SD345	SD390	
		D16以下	D19 ～ D38	D19 ～ D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135° 及び 90° (幅止め筋)				

- (注) 1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

1-2 鉄筋の継手及び定着の長さ

1-2-1 鉄筋の継手

- 鉄筋の継手位置は、特記による。
- 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。
- 耐力壁の鉄筋の重ね継手の場合、特記がなければ、40d (軽量コンクリートの場合は50d) とく表-2.1の重ね継手長さのうちの大きい値とする。
- (1) (1)以外の鉄筋の重ね継手の長さはく表-2.1による。

鉄筋の重ね継手の長さ	鉄筋の種類	コンクリートの設計 基準強度c (N/mm ²)	L1 (フックなし)		L1h (フックあり)	
			L1	L2	L1h	L2h
	SD295A SD295B	18	45d	45d	35d	35d
		21	40d	35d	30d	25d
		24, 27	35d	30d	25d	20d
	SD345	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d
		18	50d	45d	35d	30d
		21	45d	40d	30d	25d
	SD390	24, 27	40d	35d	30d	25d
		30, 33, 36	35d	30d	25d	20d

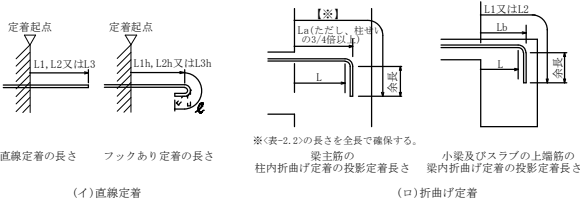
- (注) 1. L1, L1h: 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL1hは、図-①に示すようにフック部分φを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。 フックありの場合の重ね継手の長さ 図-①

1-2-2 鉄筋の定着

- 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さはく表-2.2による。
- 適用は特記による。
- (1) (2)以外の鉄筋の定着の長さはく表-2.2による。

鉄筋の定着の長さ	鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ			
			L1	L2	L3	L1h	L2h	L3h
	SD295A SD295B	18	45d	40d	小梁	10d	35d	30d
		21	40d	35d	スラブ	10d	30d	25d
		24, 27	35d	30d		25d	20d	20d
	SD345	30, 33, 36	35d	30d		25d	20d	20d
		18	50d	40d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d
		21	45d	35d		30d	25d	—
	SD390	24, 27	40d	35d		30d	25d	—
		30, 33, 36	35d	30d		25d	20d	—

- (注) 1. L1, L1h: 2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. L2, L2h: 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L3: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、図-②(イ)に示すようにフック部分φを含まない。
また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
7. 定着の方法はく図-②(ロ)による。なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLがく表-2.2のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長をく表-2.2に示す直線定着長さ以上とし、余長を8d以上とし、投影定着長さをく表-3に示す長とする。
ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上とする。

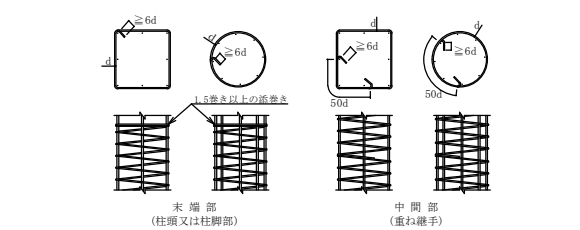


鉄筋の種類	コンクリートの設計 基準強度c (N/mm ²)	L a		L b	
		18	20d	15d	15d
	SD295A SD295B	21	15d	15d	15d
		24, 27	15d	15d	15d
	SD345	30, 33, 36	15d	15d	15d
		18	20d	20d	20d
		21	20d	20d	20d
	SD390	24, 27	20d	15d	15d
		30, 33, 36	15d	15d	15d
		21	20d	20d	20d

- (注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ (基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ (片持小梁及び片持スラブを除く。)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

1-2-3 その他の鉄筋の継手及び定着

スパイラル筋の継手及び定着



1-3 隣り合う継手の位置及び鉄筋の間隔

1-3-1 隣り合う継手の位置

鉄筋の種類	コンクリートの設計 基準強度c (N/mm ²)	L1 (フックなし)		L1h (フックあり)	
		L1	L2	L1h	L2h
	SD295A SD295B	18	45d	35d	35d
		21	40d	30d	25d
SD345	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d
	18	50d	45d	35d	30d
	21	45d	40d	30d	25d
SD390	24, 27	40d	35d	30d	25d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d
	21	50d	45d	35d	30d

1-3-2 鉄筋の間隔

- 鉄筋相互のあきは下図により、次の値のうち最大のもの以上とする。
- ただし、機械式継手及び溶接継手の場合は、特記による。
- 粗骨材の最大寸法の1.25倍
 - 25mm
 - 隣り合う鉄筋の平均径「d」の1.5倍

1-4 鉄筋 (溶接金鋼を含む) の最小かぶり厚さ (mm)

- 鉄筋及び溶接金鋼の最小かぶり厚さは、下表による。
ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。
- 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- 採用かぶり厚さは、◎設計かぶり厚さ ◎最小かぶり厚さ ◎特記かぶり厚さとする。

構造部分の種類		設計かぶり厚さ	最小かぶり厚さ	特記かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上りあり	30	20
		仕上りなし	40	30
	屋 内	仕上りあり	40	30
		仕上りなし	40	30
	屋 外	仕上りあり	50	40
		仕上りなし	50	40
土に接する部分	擁壁、耐圧スラブ	50	40	
	柱、梁、スラブ、壁	50	※40	
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	70	※60	

- (注) 1. ※印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
2. 「仕上りあり」とは、モルタル塗り等の仕上りのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上り (仕上塗材、塗装等) のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直線土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

1-5 鉄筋のフック

- 下記の (1) ～ (5) に示す異形鉄筋の末端部には、フックを付ける
- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び梁上端の四隅にある場合
 - 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合 (基礎梁を除く)
 - 煙突の鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)
 - 杭基礎のベース筋
 - 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

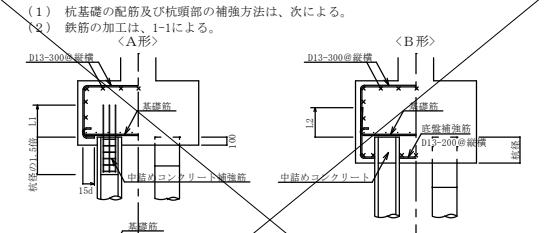
1-6 鉄筋の保護

- 鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡し、直接鉄筋の上を歩かないようにする。
- コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。
特に、かぶり厚さ、上端筋の位置及び間隔の保持に努める。

2. 基礎

2-1 基礎の配筋

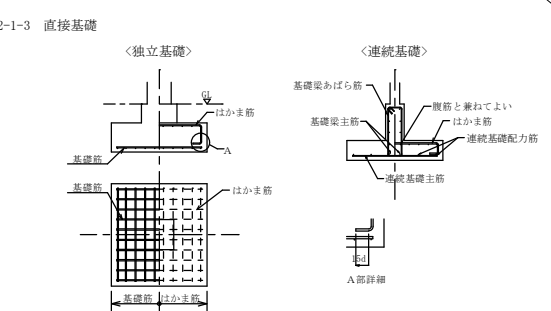
2-1-1 杭基礎



- (1) 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法は、次による。
- (2) 鉄筋の加工は、1-1による。
- ※ 既製コンクリート杭の杭頭部の補強方法は、A形又はB形とし、適用は特記による。
特記がなければ、B形とする。
- ※ 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
- ※ 既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。

2-1-2 杭頭の補強

2-1-3 直接基礎



2-2 現場打杭

特記による。

3. 基礎梁

3-1 基礎梁主筋の継手及び定着

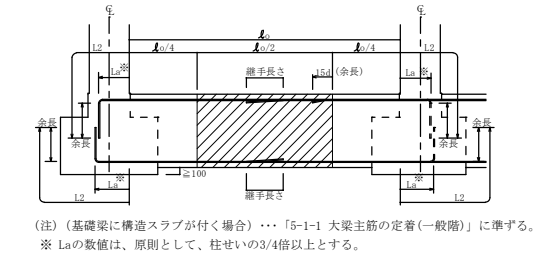
3-1-1 一般事項

- 梁筋は、原則として、柱をまいて引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、右図による。
- 梁主筋を柱内に定着する場合は、下記による。
上端筋: 曲げ降ろす。
下端筋: 原則として曲げ上げる。

3-1-2 継手、定着

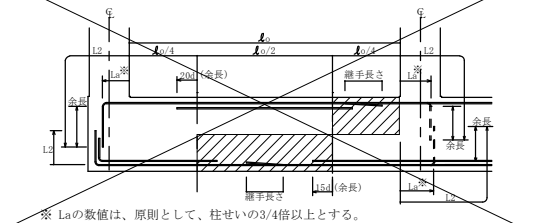
(1) 独立基礎の場合

(基礎梁にスラブが付かない場合)



- (注) (基礎梁に構造スラブが付く場合) …「5-1-1 大梁主筋の定着 (一般階)」に準ずる。
- ※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

(2) 連続基礎及びべた基礎、独立基礎で耐圧スラブ付きの場合

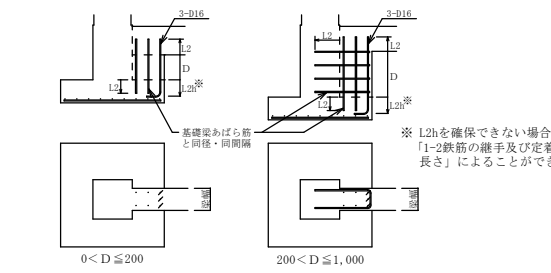


- ※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

3-2 基礎梁のあばら筋

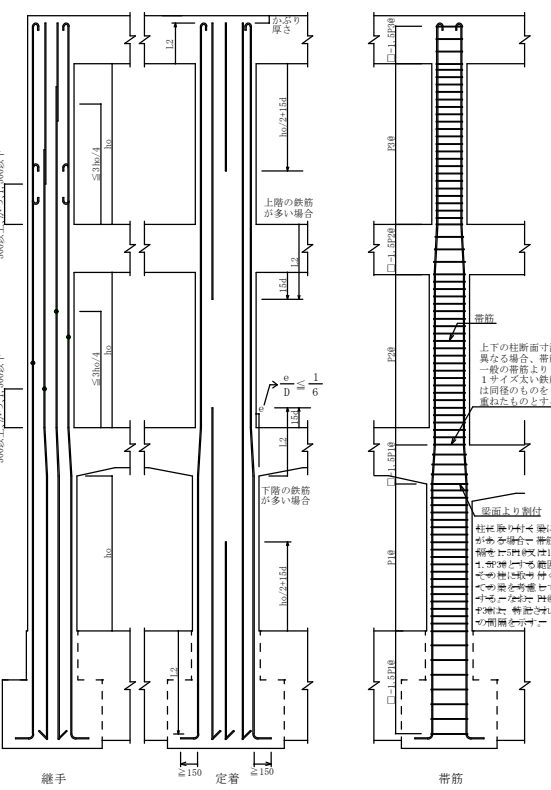
- あばら筋の径及び間隔は、特記による。
- あばら筋組立の形及びフックの位置は、「5-3-2 あばら筋組立の形及びフックの位置」による。ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は右図による。
- 腹筋及び幅止め筋は、特記なき限り「日本建築学会 鉄筋コンクリート造配筋指針」による。
- あばら筋の割付は、「5-3-1 あばら筋の割付」による。

3-3 基礎接合部の補強



4. 柱

4-1 柱主筋の余長、定着、継手位置及び帯筋の割付



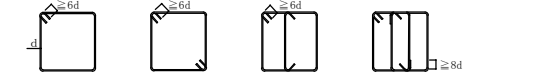
- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び梁上端の柱頭にある場合には、フックを付ける。
- 隣り合う継ぎ手の位置は、1-3-1のく表-4による。

4-2 帯筋の形状、組立

帯筋組立の形は下図により、適用は特記による。特記がなければ、次による。

- H形を標準とする。
- フック及び継手の位置は、交互とする。
- 溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は15d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
- S P形において、柱頭及び柱筋の端部は1.5巻以上の添巻きを行なう。
- H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-1形とする。

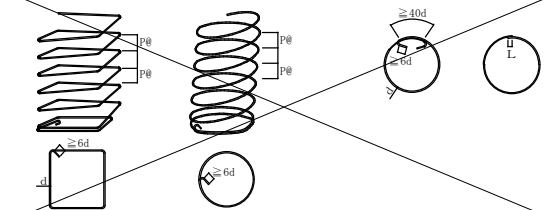
<H 形>



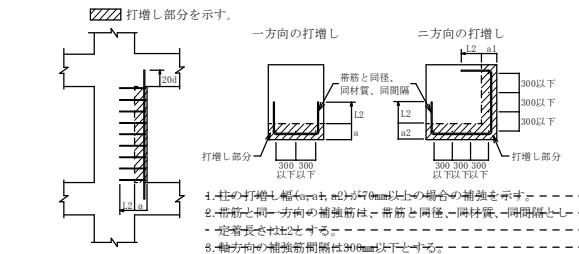
<W-1 形> ※溶接は、鉄筋の組立て前に行う。



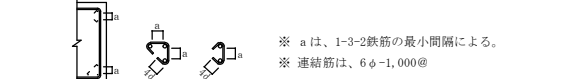
<S P 形> (スパイラル筋)



4-3 柱の打増し補強配筋



4-4 二段筋の保持



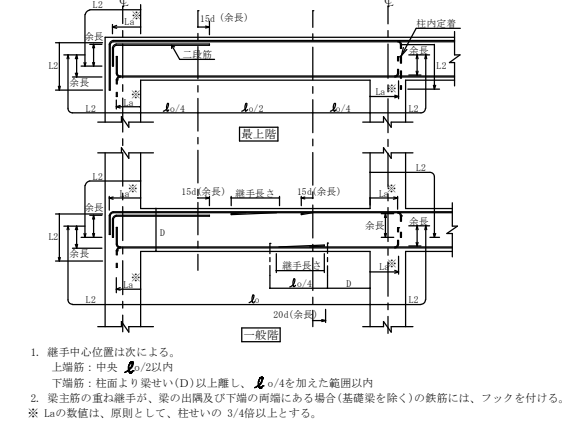
5. 大梁・小梁・片持梁

5-1 定着

5-1-1 大梁主筋の定着

- <梁主筋の梁内定着>
- 梁主筋は原則として柱をまいて引き通す。引き通すことができない場合は、「1-2 鉄筋の継手及び定着の長さ」に準じて柱内に定着することができる。
ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、右図による。
 - 梁主筋を柱内に定着する場合は、下記による。
上端筋: 曲げ降ろす。
下端筋: 原則として曲げ上げる。

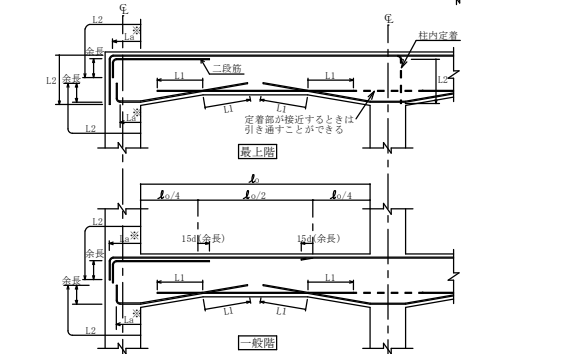
<ハンチのない場合>



<大梁に段差がある場合>

- ※ 吊上げ筋は、一般のあばら筋より1サイズ大きい鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。

<ハンチのある場合>

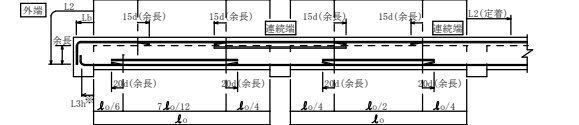


- 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合 (基礎梁を除く) の鉄筋には、フックを付ける。

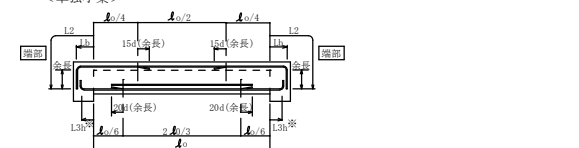
※ Laの数値は、原則として、柱せいの 3/4倍以上とする。

5-1-2 小梁主筋の定着

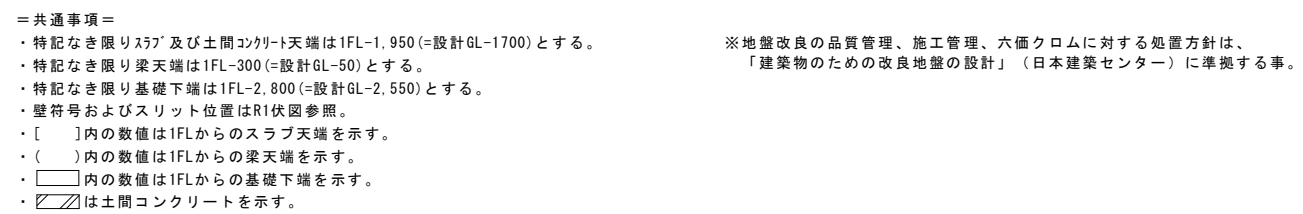
<連続小梁>

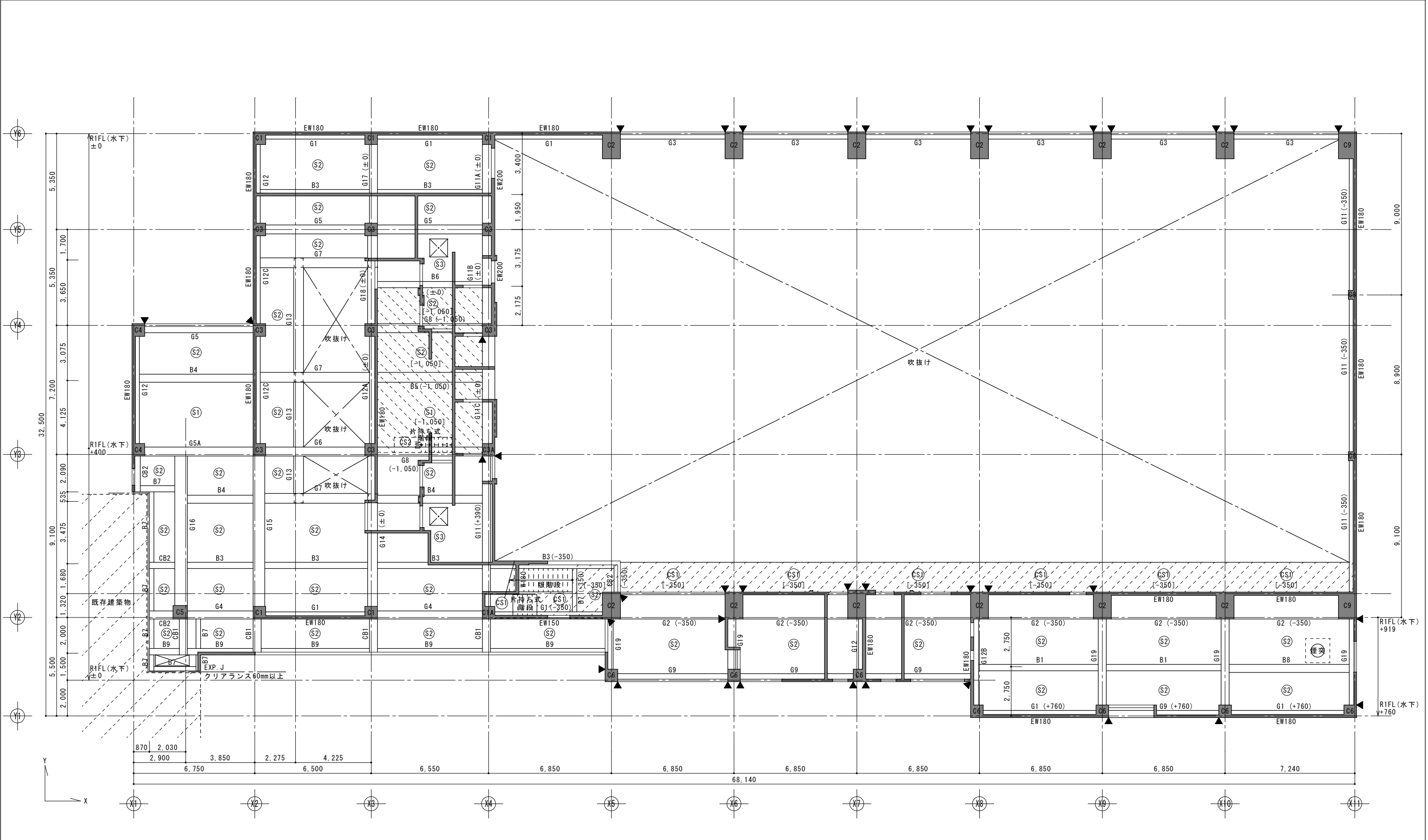


<単独小梁>



- 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
- ※ L3hを確保できない場合は、「1-2鉄筋の継手及び定着の長さ」によることができる。

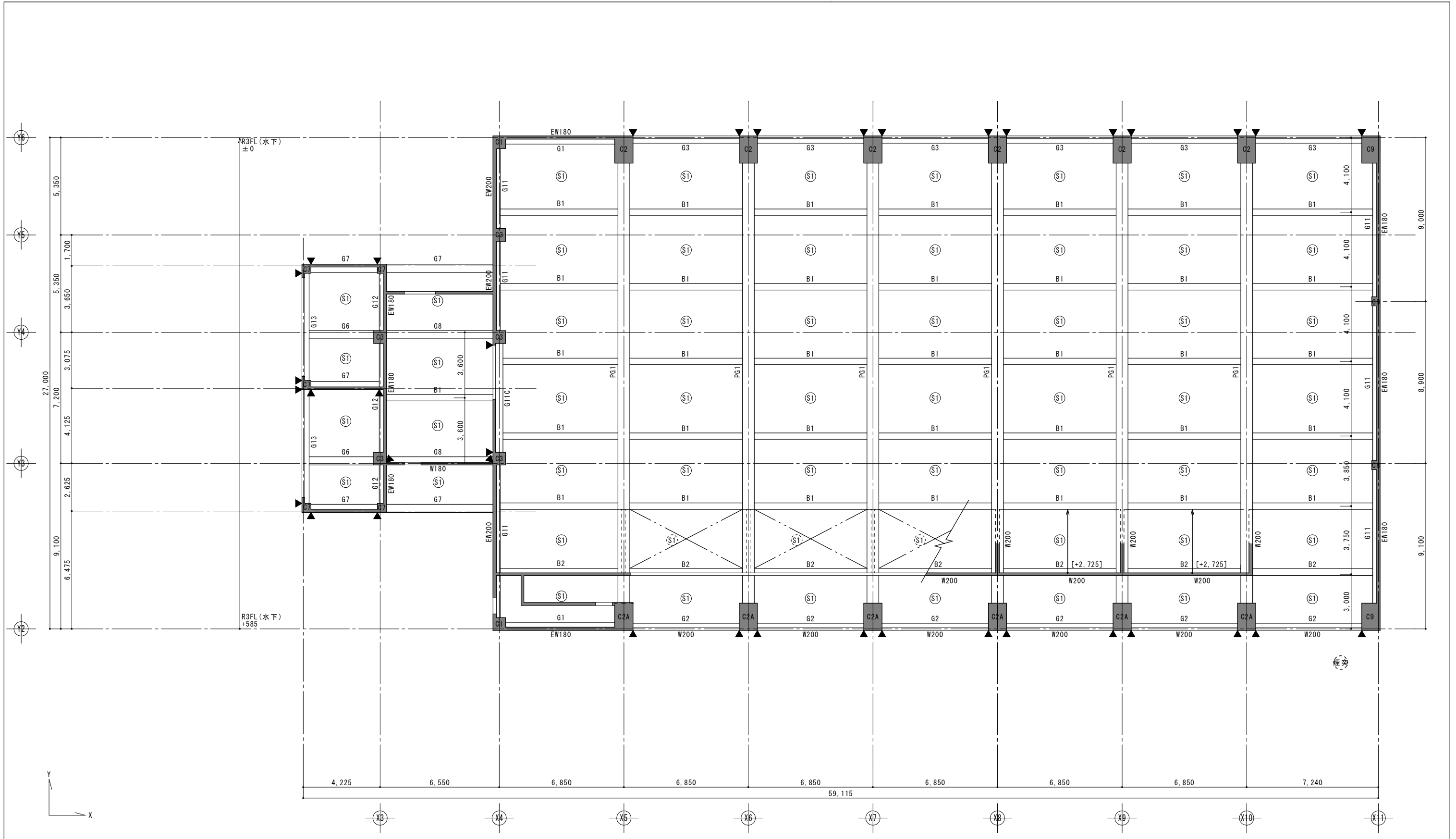




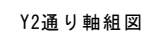
- ＝共通事項＝
- ・特記なき限りスラブ'天端は屋根勾配に準ずる。
 - ・特記なき限り梁天端は屋根勾配に準ずる。
 - ・特記なき限り壁はW150を示す。
 - ・[]内の数値はRIFLからのスラブ天端を示す。
 - ・()内の数値はRIFLからの梁天端を示す。
 - ・▼ は完全スリット位置を示す。
 - ・[]はRIFL-350を示す。
 - ・[]はRIFL-1,050を示す。

株式会社 ティーケー設計一級建築士事務所
一級建築士登録第305151号
構造設計一級建築士交付第75号 高木 光二

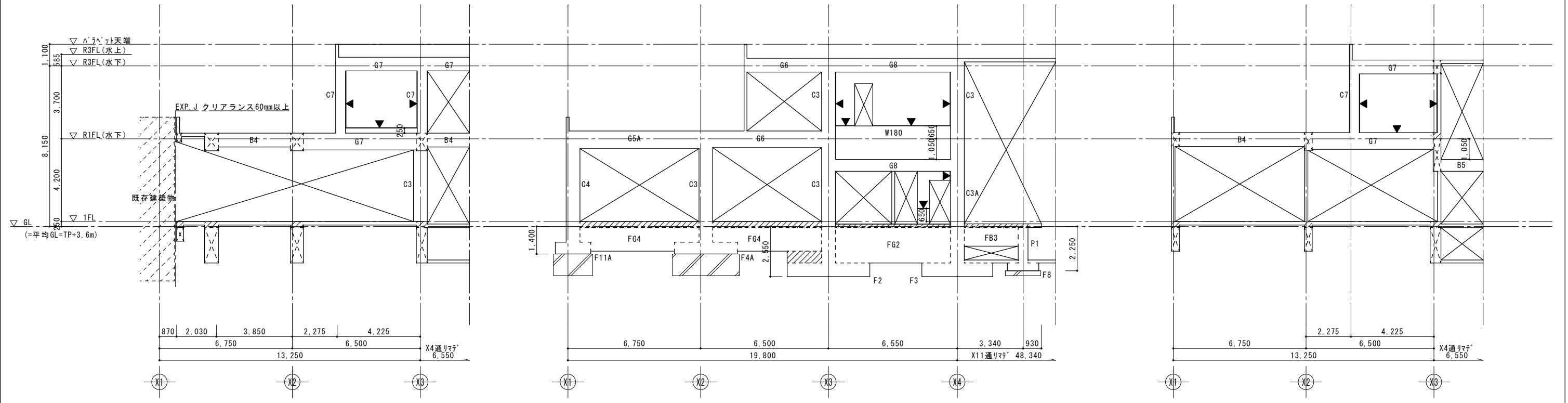
楠山・横須賀建築関連業務特定共同企業体 一級建築士登録第228646 横須賀 力登			縮尺 A1=1:100 A3=1:200 設計年月日 2018.08.31	工事名称 糸魚川市健康づくりセンター屋内プール増築（建築）工事 図面名称 R1階（2階、R2階）伏図（見上げ図）	No. C-06
--	--	--	---	---	----------



- ＝共通事項＝
- ・特記なき限りスラブ天端は屋根勾配に準ずる。
 - ・特記なき限り梁天端は屋根勾配に準ずる。
 - ・特記なき限り壁はW150を示す。
 - ・[]内の数値はR3FLからのスラブ天端を示す。
 - ・()内の数値はR3FLからの梁天端を示す。
 - ・▼ は完全スリット位置を示す。



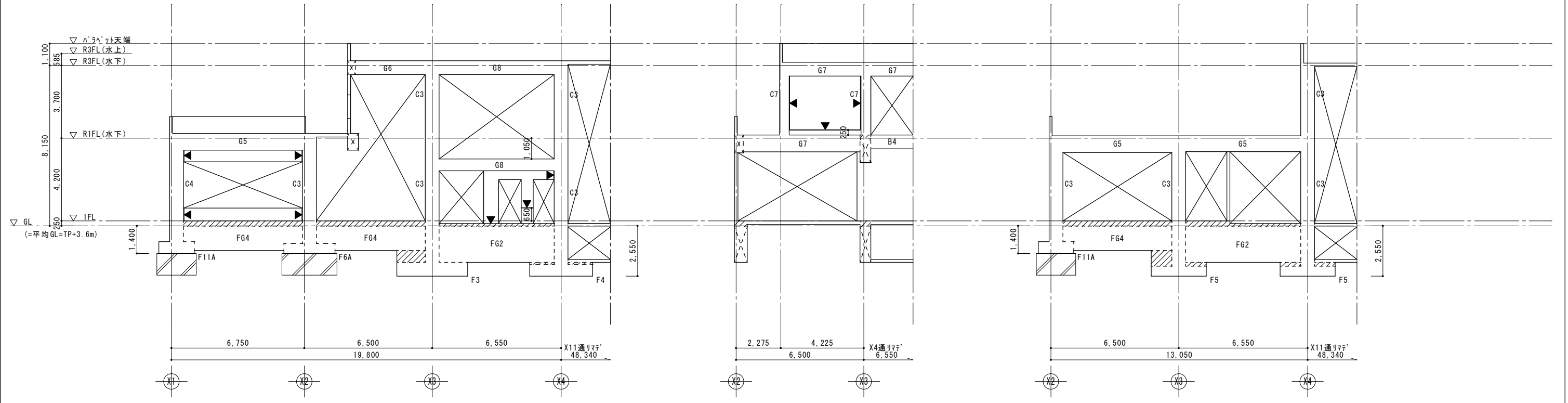
- ・特記なき限り壁はW150とする。
- ・▼ は完全スリット位置を示す。
- ・ は増打ちを示す。
- ・特記なき限りラップルコンクリート底はGL-3,000とする。
- ・ はラップルコンクリートを示す。



Y2+6,475通り軸組図

Y3通り軸組図

Y3+4,125通り軸組図



Y4通り軸組図

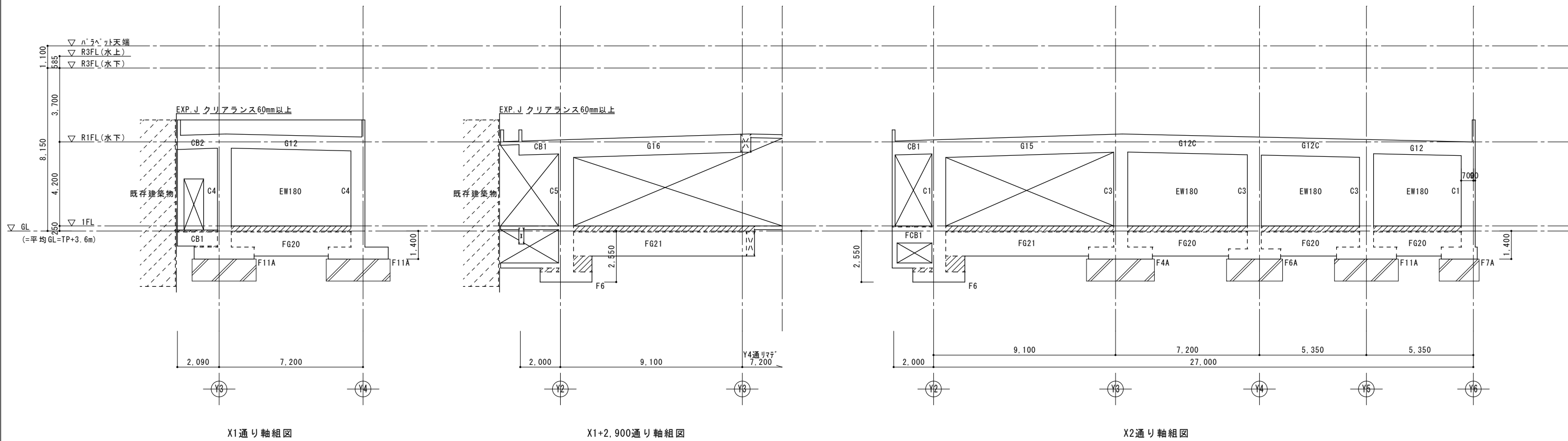
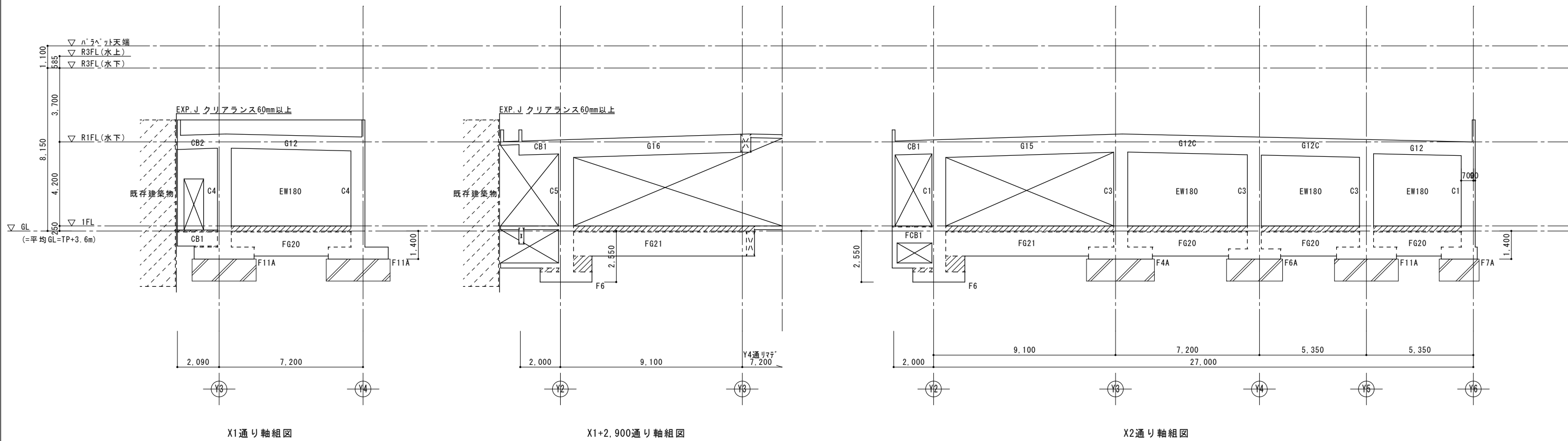
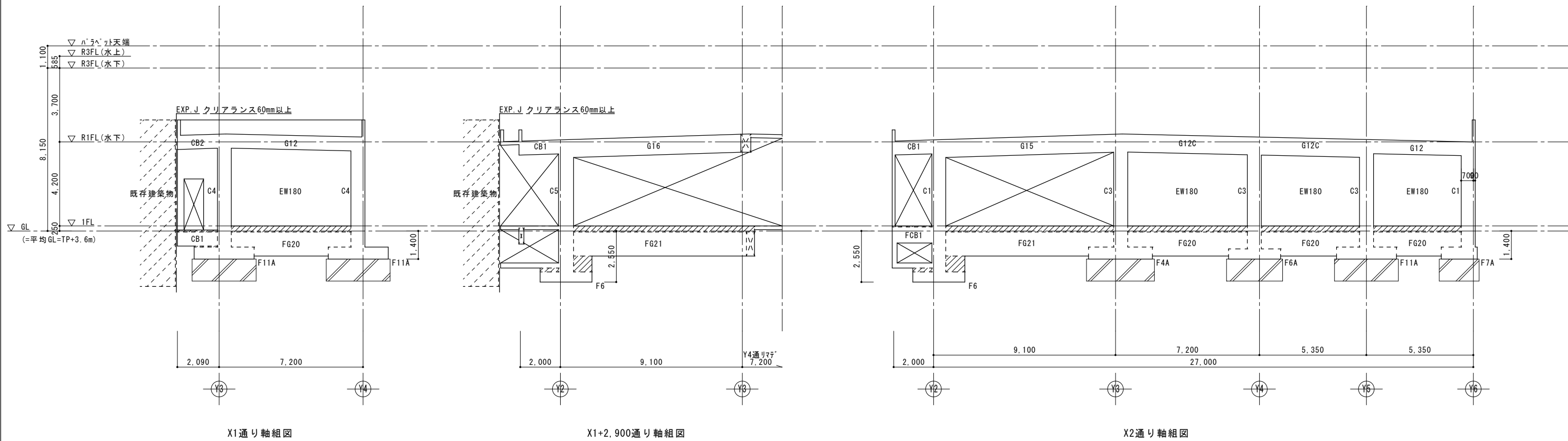
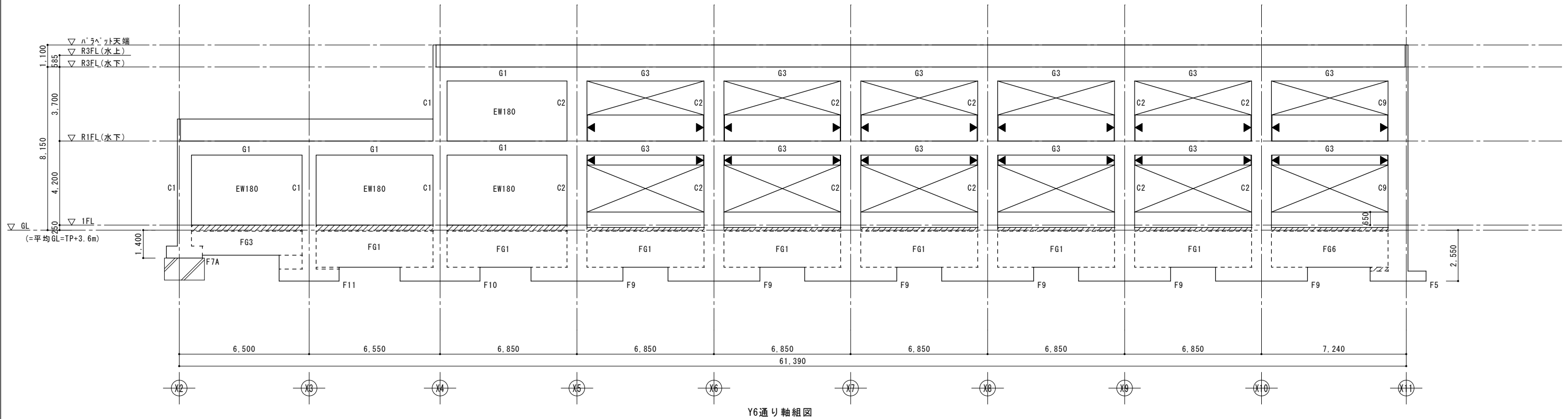
Y4+3,650通り軸組図

Y5通り軸組図

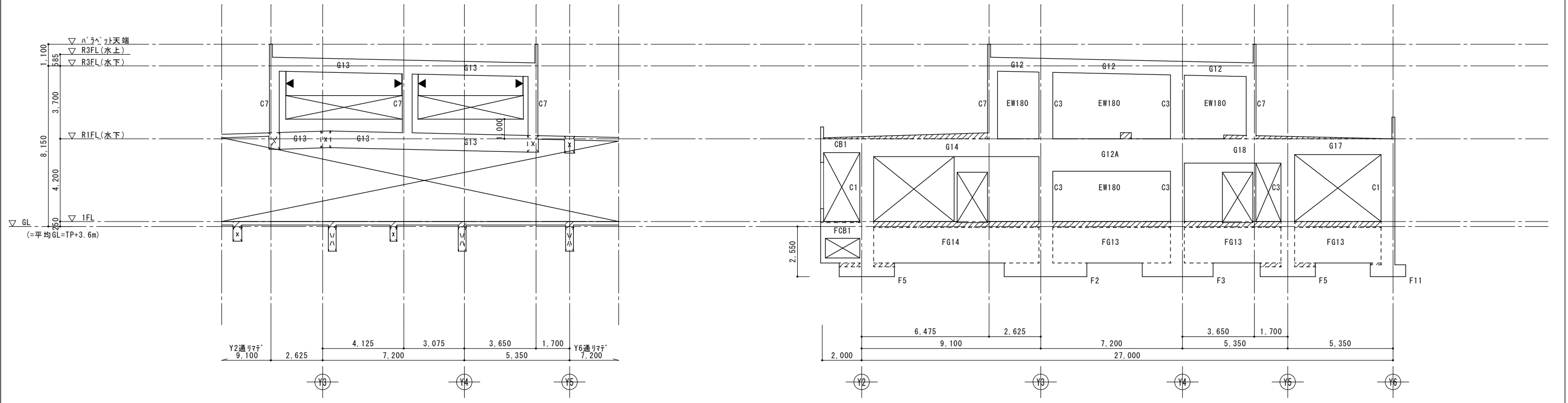
- ＝共通事項＝
- ・特記なき限り壁はW150とする。
 - ・▼ は完全スリット位置を示す。
 - ・は増打ちを示す。
 - ・特記なき限りラブルコンクリート底はGL-3,000とする。
 - ・はラブルコンクリートを示す。

株式会社 ティーケー設計一級建築士事務所
一級建築士登録第305151号
構造設計一級建築士交付第75号 高木 光二

				楠 山 ・ 横 須 賀 建 築 関 連 業 務 特 定 共 同 企 業 体				縮 尺 A1=1:100 A3=1:200		工 事 名 称 糸 魚 川 市 健 康 づ く り セ ン タ ー 屋 内 プ ール 増 築 （ 建 築 ） 工 事		No. C - 0 9
				一 級 建 築 士 登 録 第 2 2 8 6 4 6 確 部 力 啓				設 計 年 月 日 2018.08.31		図 面 名 称 軸 組 図 （ 2 ）		

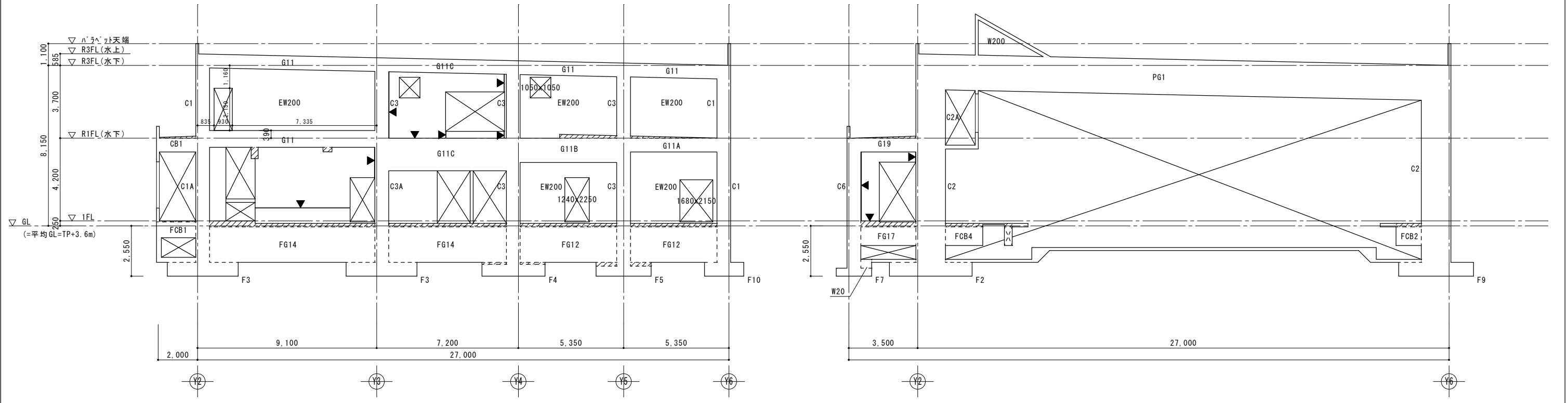


- ＝ 共通事項 ＝
- ・ 特記なき限り壁はW150とする。
 - ・  は完全スリット位置を示す。
 - ・  は増打ちを示す。
 - ・ 特記なき限りラップコンクリート底はGL-3,000とする。
 - ・  はラップコンクリートを示す。



X2+2,275通り軸組図

X3通り軸組図

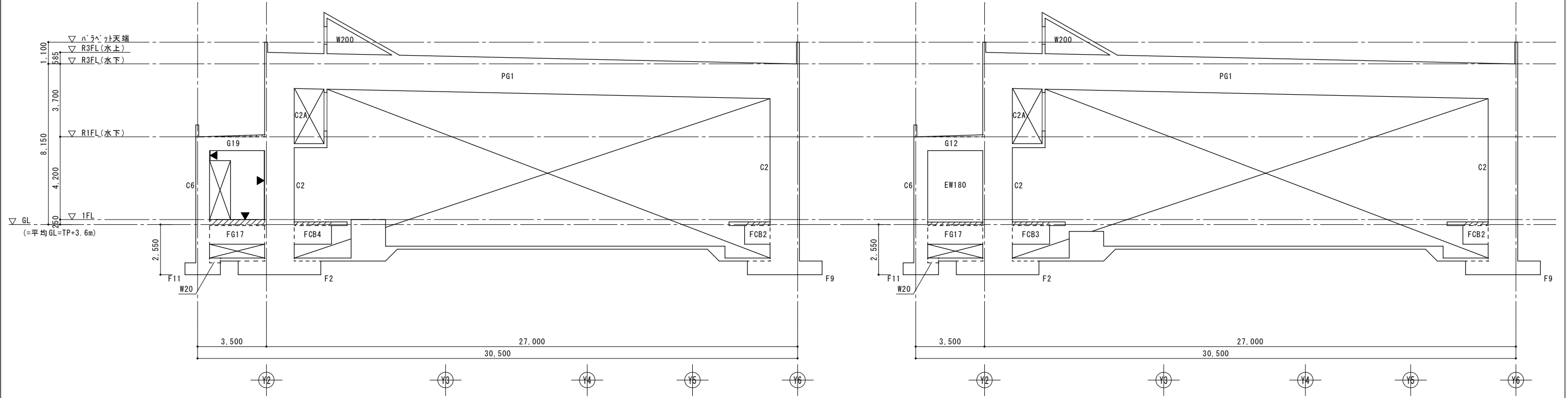


X4通り軸組図

X5通り軸組図

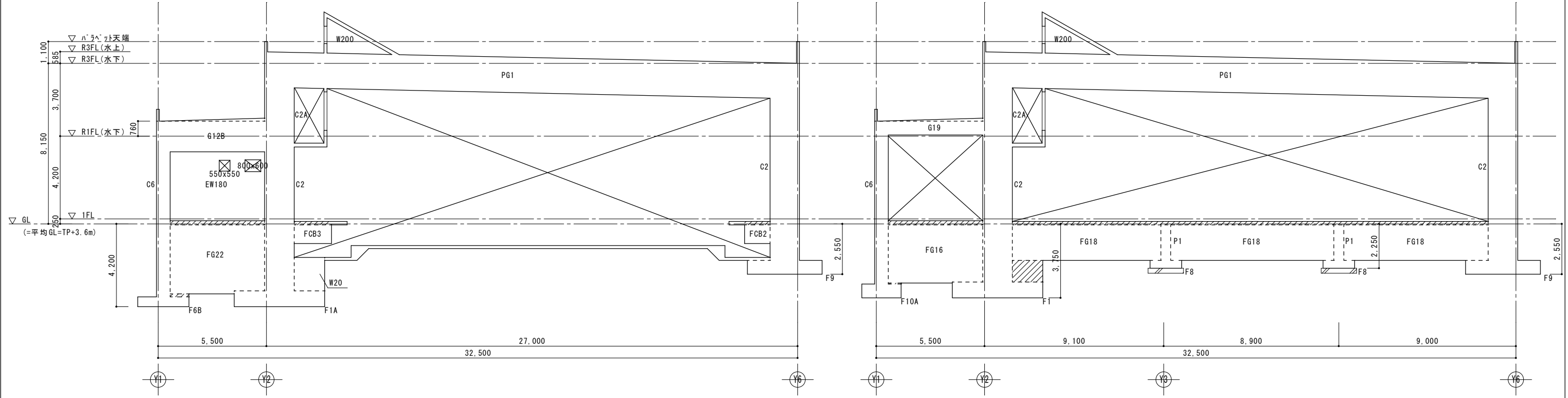
- ＝共通事項＝
- ・特記なき限り壁はW150とする。
 - ・▼ は完全スリット位置を示す。
 - ・は増打ちを示す。
 - ・特記なき限りラブルコンクリート底はGL-3,000とする。
 - ・はラブルコンクリートを示す。

株式会社 ティーケー設計一級建築士事務所
一級建築士登録第305151号
構造設計一級建築士交付第75号 高木 光二



X6通り軸組図

X7通り軸組図



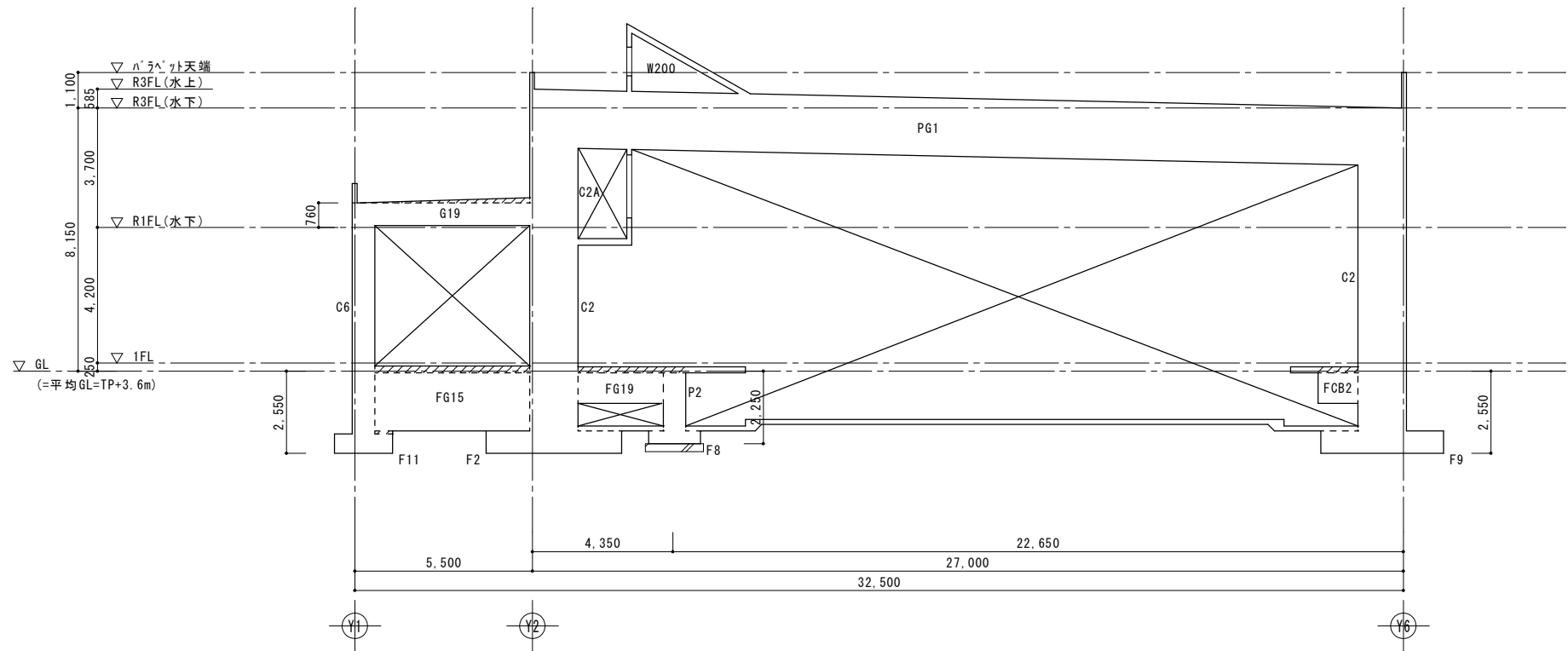
X8通り軸組図

X9通り軸組図

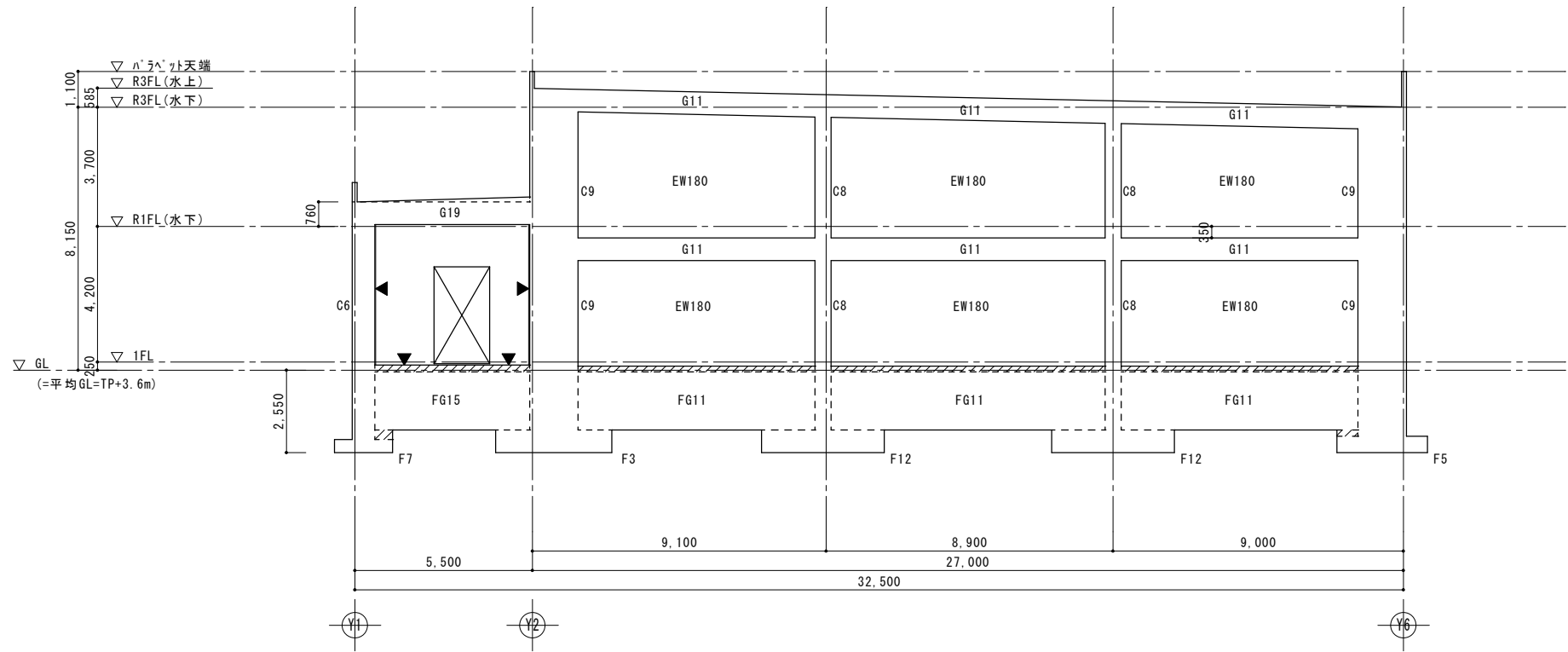
- ＝共通事項＝
- ・特記なき限り壁はW150とする。
 - ・▼は完全スリット位置を示す。
 - ・は増打ちを示す。
 - ・特記なき限りラブルコンクリート底はGL-3,000とする。
 - ・はラブルコンクリートを示す。

株式会社 ティーケー設計一級建築士事務所
一級建築士登録第305151号
構造設計一級建築士交付第75号 高木 光二

楠山・横須賀建築関連業務特定共同企業体 一級建築士登録第228646 磯部 力啓				縮尺 A1=1:100 A3=1:200 設計年月日 2018.08.31	工事名称 糸魚川市健康づくりセンター屋内プール増築（建築）工事 図面名称 軸組図（5）	No. C-12
---	--	--	--	---	--	----------



X10通り軸組図



X11通り軸組図

- ＝共通事項＝
- ・特記なき限り壁はW150とする。
 - ・▼ は完全スリット位置を示す。
 - ・は増打ちを示す。
 - ・特記なき限りラップルコンクリート底はGL-3,000とする。
 - ・はラップルコンクリートを示す。

株式会社 ティーケー設計一級建築士事務所
一級建築士登録第305151号
構造設計一級建築士交付第75号 高木 光二

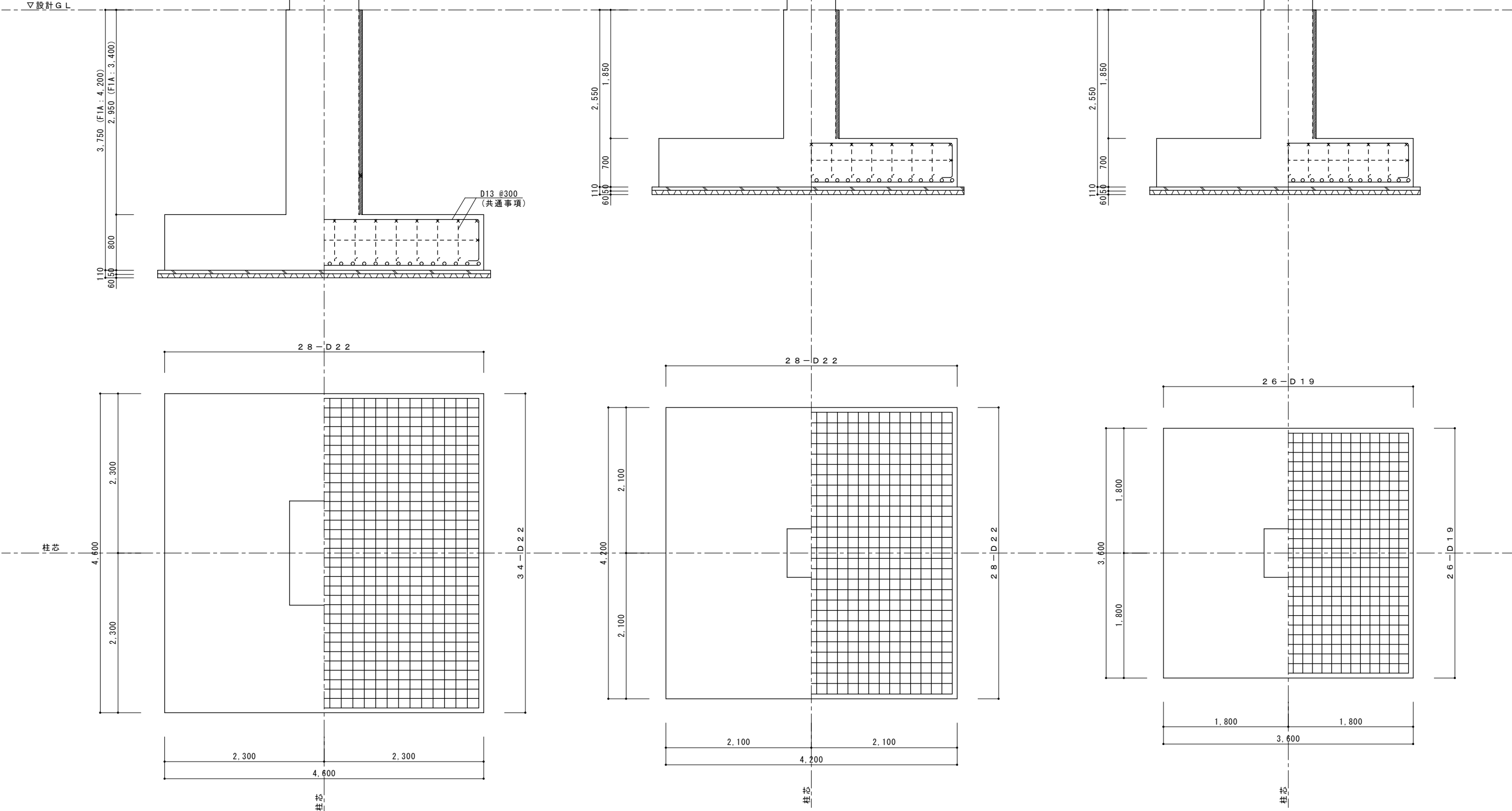
基礎リスト(1) 1 : 3 0

※基礎底が2.5m未満の場合は2.5mまでラッブルコンクリートとする。また、基礎底において玉石混り砂礫層が堆積していない場合、玉石混り砂礫層までラッブルコンクリートとする。

(F 1) 内数値はF1Aを示す

(F 2)

(F 3)



- 1. コンクリート : $F_c = 30\text{ N/mm}^2$
- 2. 鉄筋 : SD295A (D10~D16)
SD345 (D19~D25)
- 3. 継手 : 重ね継手
- 4. 巾止メ筋 : D10-1000@

株式会社 ティーケー設計一級建築士事務所
一級建築士登録第305151号
構造設計一級建築士交付第75号 高木 光二

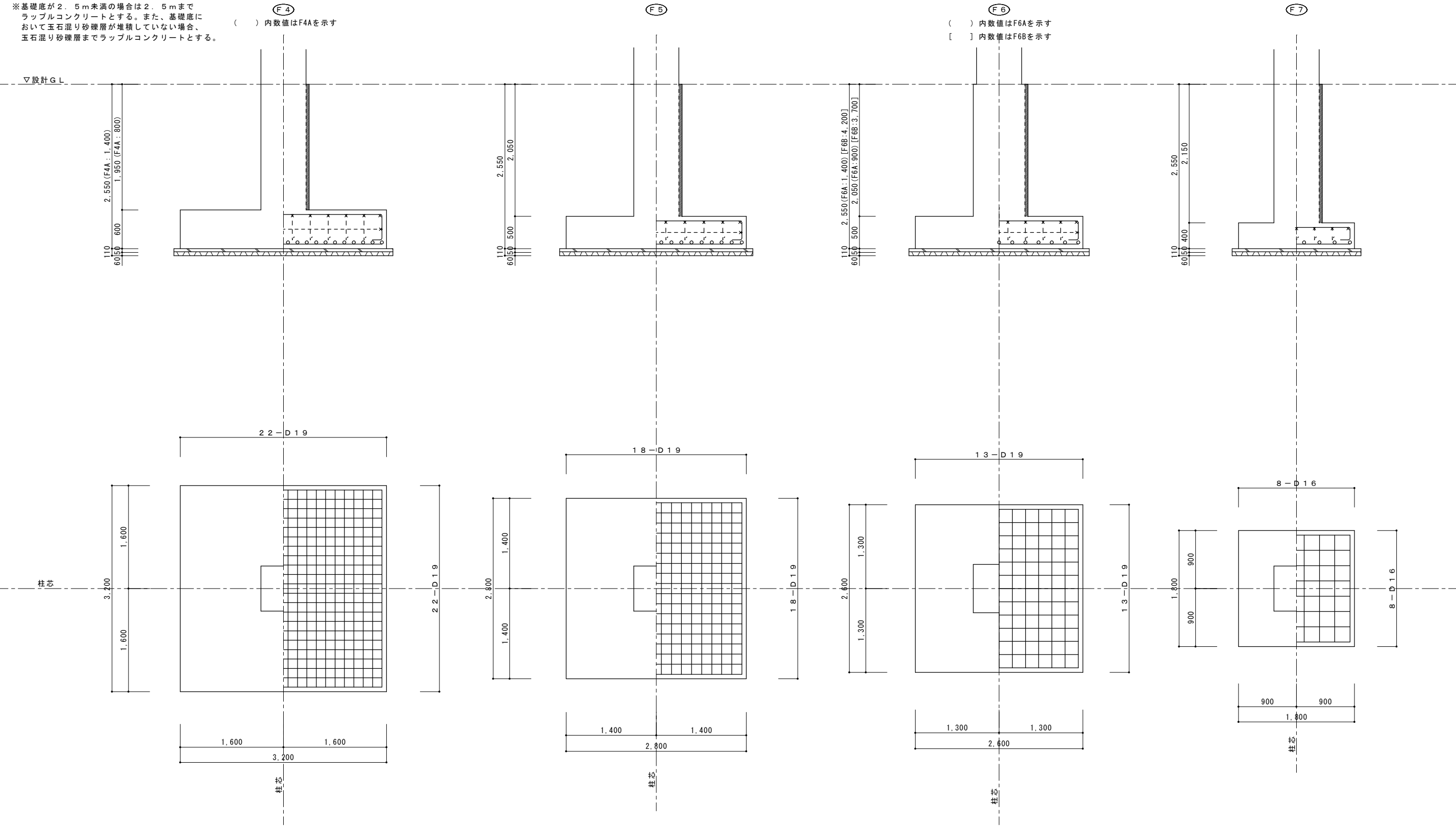
楠山・横須賀建築関連業務特定共同企業体
一級建築士登録第228646 横部 力登

縮尺 A1=1:30
A3=1:60
設計年月日 2018.08.31

工事名称 糸魚川市健康づくりセンター屋内プール増築（建築）工事
図面名称 基礎リスト（1）

基礎リスト(2) 1:30

※基礎底が2.5m未満の場合は2.5mまでラッブルコンクリートとする。また、基礎底において玉石混り砂礫層が堆積していない場合、玉石混り砂礫層までラッブルコンクリートとする。



- 1. コンクリート: $F_c = 30\text{ N/mm}^2$
- 2. 鉄筋: SD295A (D10~D16)
SD345 (D19~D25)
- 3. 継手: 重ね継手
- 4. 巾止メ筋: D10-1000@

株式会社 ティーケー設計一級建築士事務所
一級建築士登録第305151号
構造設計一級建築士交付第75号 高木 光二

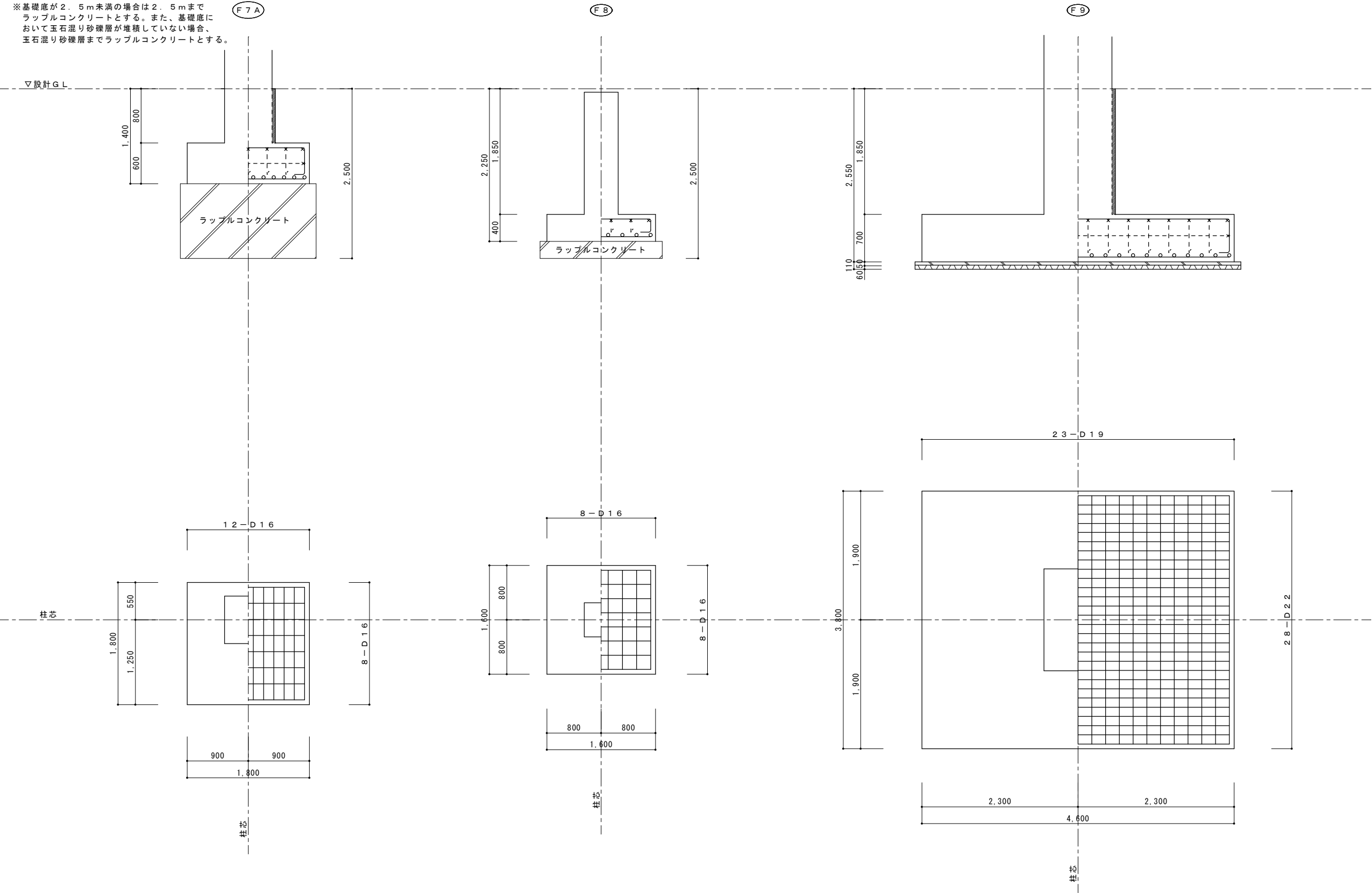
楠山・横須賀建築関連業務特定共同企業体
一級建築士登録第228646 横須賀 力登

縮尺 A1=1:30
A3=1:60
設計年月日 2018.08.31

工事名称 糸魚川市健康づくりセンター屋内プール増築(建築)工事
図面名称 基礎リスト(2)

基礎リスト(3) 1 : 3 0

※基礎底が2.5m未満の場合は2.5mまでラップルコンクリートとする。また、基礎底において玉石混り砂礫層が堆積していない場合、玉石混り砂礫層までラップルコンクリートとする。



- 1. コンクリート : $F_c = 30 \text{ N/mm}^2$
- 2. 鉄筋 : SD295A (D10~D16)
SD345 (D19~D25)
- 3. 継手 : 重ね継手
- 4. 巾止メ筋 : D10-1000@

株式会社 ティーケー設計一級建築士事務所
一級建築士登録第305151号
構造設計一級建築士交付第75号 高木 光二

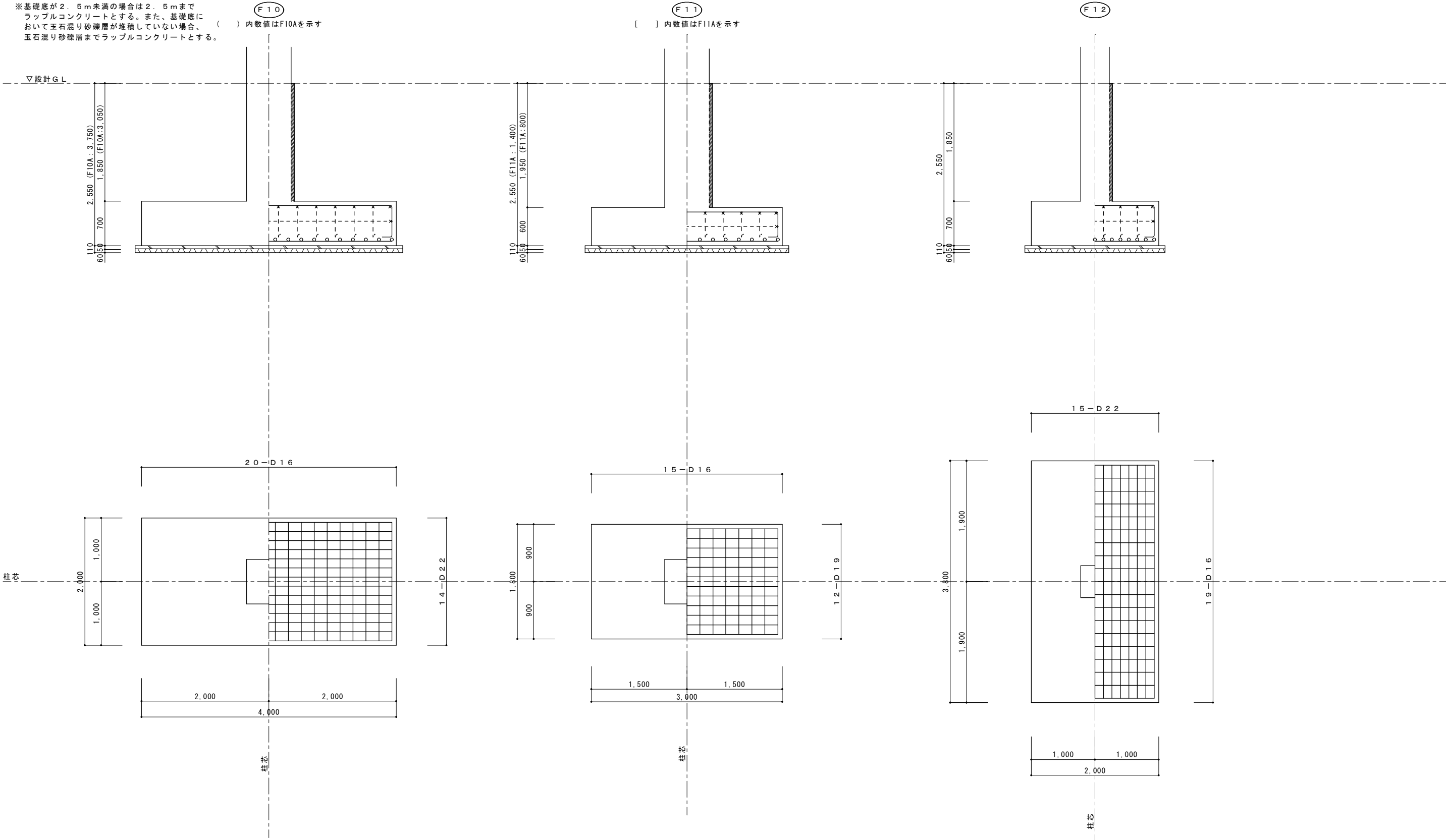
楠山・横須賀建築関連業務特定共同企業体
一級建築士登録第228646 横部 力啓

縮尺 A1=1:30
A3=1:60
設計年月日 2018.08.31

工事名称 糸魚川市健康づくりセンター屋内プール増築(建築)工事
図面名称 基礎リスト(3)

基礎リスト(4) 1:30

※基礎底が2.5m未満の場合は2.5mまでラッブルコンクリートとする。また、基礎底において玉石混り砂礫層が堆積していない場合、()内数値はF10Aを示す
玉石混り砂礫層までラッブルコンクリートとする。



- 1. コンクリート : $F_c = 30 \text{ N/mm}^2$
- 2. 鉄筋 : SD295A (D10~D16)
SD345 (D19~D25)
- 3. 継手 : 重ね継手
- 4. 巾止メ筋 : D10-1000@

株式会社 ティーケー設計一級建築士事務所
一級建築士登録第305151号
構造設計一級建築士交付第75号 高木 光二

楠山・横須賀建築関連業務特定共同企業体
一級建築士登録第228646 横須賀 力啓

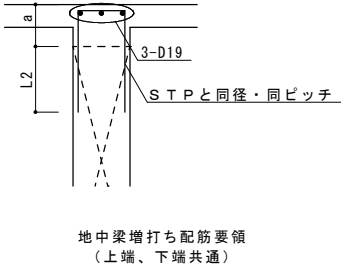
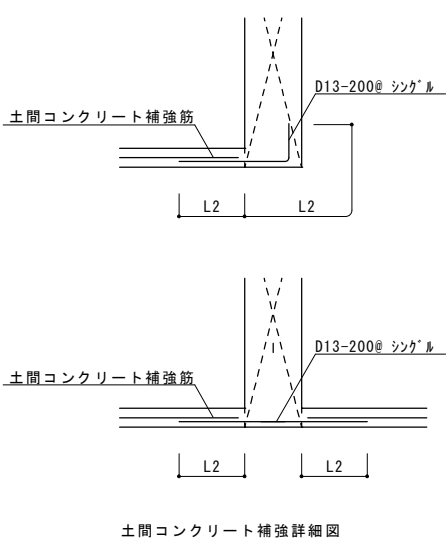
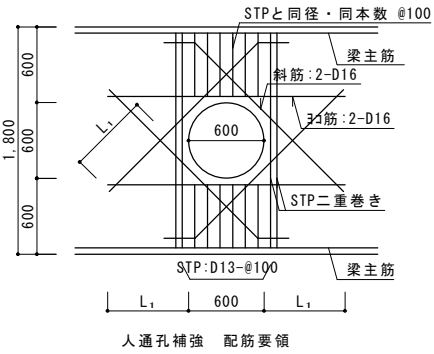
縮尺 A1=1:30
A3=1:60
設計年月日 2018.08.31

工事名称 糸魚川市健康づくりセンター屋内プール増築(建築)工事
図面名称 基礎リスト(4)

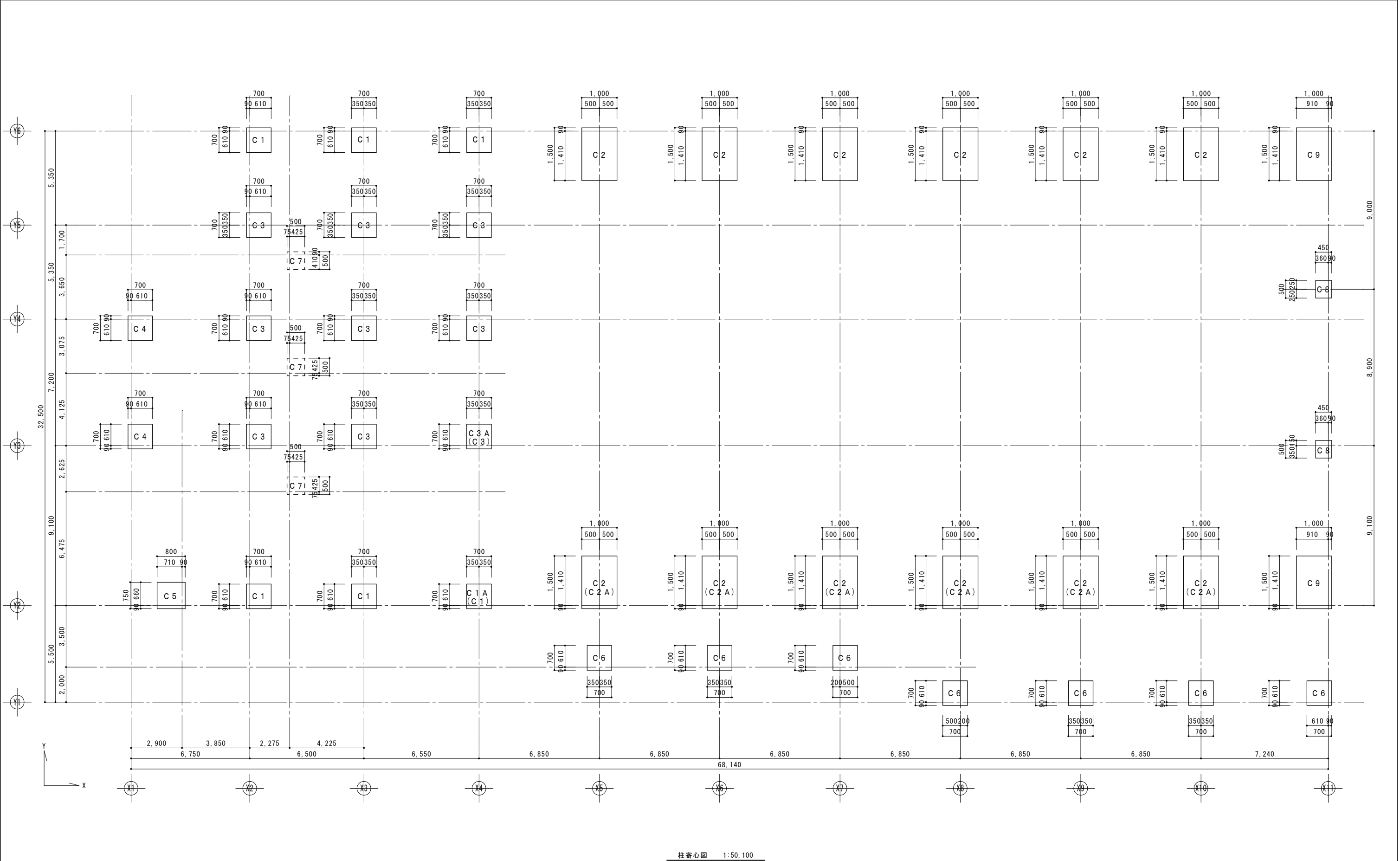
符 号	FG 1	FG 2	FG 3	FG 4	FG 5	FG 6		FG 11	FG 12	FG 13	FG 14	FG 15	FG 16	FG 17	FG 18
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面															
BxD	400×1800	400×1800	400×1200	400×1200	400×3550	400×1800		900×1800	450×1800	400×1800	500×1800	400×1800	400×2950	500×950	450×1800
上 端 筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	7-D22		6-D22	4-D22	4-D22	10-D22	3-D22	5-D22	7-D22	8-D22
下 端 筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	7-D22		6-D22	3-D22	3-D22	7-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22
腹 筋	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	14-D13	6-D13		6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	12-D13	2-D13	6-D13
スターラップ	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@		□-D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	□-D13-200@	D13-200@
備 考								主筋定着長40d	主筋定着長40d	主筋定着長40d	主筋定着長40d	主筋定着長40d	主筋定着長40d	主筋定着長40d	主筋定着長40d

符 号	FG 19	FG 20	FG 21	FG 22		FB 1	FB 2	FB 3	FB 4	FB 5	FB 6	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面		全断面				
断 面												
BxD	400×950	400×1200	500×1200	400×3550		400×950	400×950	300×950	600×950	250×800	250×1800	
上 端 筋	3-D22	3-D22	9-D22	3-D22		4-D22	7-D22 4-D22	3-D22	8-D22 5-D22	4-D19 2-D19	2-D19 2-D19	
下 端 筋	3-D22	3-D22	6-D22	3-D22		4-D22	4-D22 7-D22	3-D22	5-D22 8-D22	2-D19 4-D19	2-D19 4-D19	
腹 筋	2-D13	4-D13	4-D13	14-D13		2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	6-D13	
スターラップ	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@		D13-200@	D13-200@	D10-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	
備 考	主筋定着長40d	主筋定着長40d	主筋定着長40d	主筋定着長40d								

符 号	FB 7	FCB 1	FCB 2	FCB 3	FCB 4	FCB 5	FCB 6
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面							
BxD	300×3550	500×800	500×950	550×950	650×950	350×950	300×1800
上 端 筋	3-D22	10-D22	7-D22	11-D22	13-D22	4-D22	4-D22
下 端 筋	3-D22	5-D22	4-D22	7-D22	3-D22	2-D22	2-D22
腹 筋	14-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	6-D13
スターラップ	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-200@	D13-150@	D13-200@	D13-200@
備 考							



1. 本体コンクリート: $F_c = 30 \text{ N/mm}^2$
2. 鉄 筋: SD295A (D10~D16)
SD345 (D19~D25)
3. 圧 接: D19以上ガス圧接の事
4. 巾止メ筋: D10-1000@
5. 定着: 主筋の柱への定着長さは、フックの有無に関わらず40d以上とする



楠山・横須賀建築関連業務特定共同企業体
一級建築士登録第228646 横部 力啓

承認	設計	監造

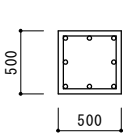
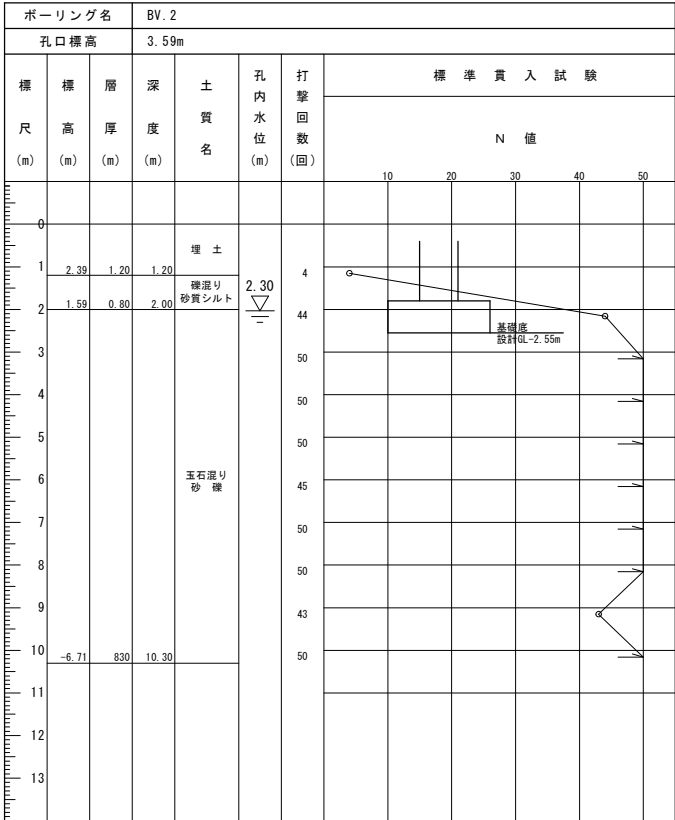
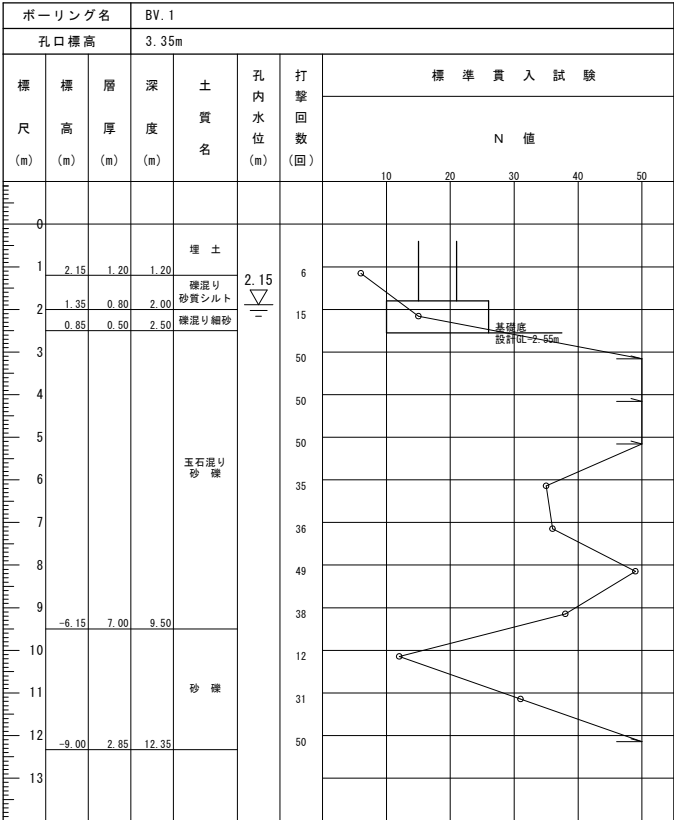
縮尺	A1=1:50,100 A3=1:100,200
設計年月日	2018.08.31

工事名称	糸魚川市健康づくりセンター屋内プール増築（建築）工事
図面名称	寄心図

柱リスト 1 : 3 0

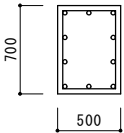
番 号	C 1、C 1 A	C 2	C 2 A	C 3、C 3 A	C 4	C 5	C 6	C 7	C 8	C 9
位 置	全 域	全 域	全 域	全 域				全 域	全 域	全 域
2 F 配筋図										
断 面	7 0 0 × 7 0 0	1 0 0 0 × 1 5 0 0	1 0 0 0 × 1 5 0 0	7 0 0 × 7 0 0				5 0 0 × 5 0 0	4 5 0 × 5 0 0	1 0 0 0 × 1 5 0 0
主 筋	1 2 - D 2 2	2 6 - D 2 9	3 4 - D 2 9	1 2 - D 2 2				1 2 - D 2 2	8 - D 2 2	3 2 - D 2 2
フ ー プ	□ - D 1 3 - 1 0 0 @	田 - D 1 3 - 1 0 0 @	田 - D 1 3 - 1 0 0 @	□ - D 1 3 - 1 0 0 @				□ - D 1 3 - 1 0 0 @	□ - D 1 3 - 1 0 0 @	田 - D 1 3 - 1 0 0 @
備 考		柱梁接合部田 - D 1 3 - 1 0 0 @	柱梁接合部田 - D 1 3 - 1 0 0 @							柱梁接合部田 - D 1 3 - 1 0 0 @
位 置	全 域	全 域		全 域	全 域	全 域	全 域		全 域	全 域
Y 1 F 配筋図										
断 面	7 0 0 × 7 0 0	1 0 0 0 × 1 5 0 0		7 0 0 × 7 0 0	7 0 0 × 7 0 0	8 0 0 × 7 5 0	7 0 0 × 7 0 0		4 5 0 × 5 0 0	1 0 0 0 × 1 5 0 0
主 筋	1 2 - D 2 2	2 6 - D 2 9		1 2 - D 2 2	1 2 - D 2 2	1 4 - D 2 2	1 2 - D 2 2		8 - D 2 2	3 2 - D 2 2
フ ー プ	C 1 : □ - D 1 3 - 1 0 0 @ C 1 A : 田 - D 1 3 - 1 0 0 @	田 - D 1 3 - 1 0 0 @		C 3 : □ - D 1 3 - 1 0 0 @ C 3 A : 田 - D 1 3 - 1 0 0 @	□ - D 1 3 - 1 0 0 @	□ - D 1 3 - 1 0 0 @	□ - D 1 3 - 1 0 0 @		□ - D 1 3 - 1 0 0 @	田 - D 1 3 - 1 0 0 @
備 考		柱梁接合部田 - D 1 3 - 1 0 0 @								柱梁接合部田 - D 1 3 - 1 0 0 @

柱状図（同一敷地内 別棟下部）



主筋：8-D19
帯筋：□-D13-150@

P 1 配筋要領



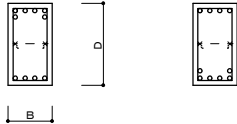
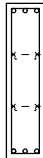
主筋：10-D19
帯筋：□-D13-150@

P 2 配筋要領

1. 本体コンクリート：F c = 3 0 N / m m ²
2. 鉄 筋：SD295A (D10~D16)
SD345 (D19~D25)
SD390 (D29)
3. 圧 接：D19以上ガス圧接の事
4. 巾止メ筋：D10-1000@
5. 接合部フープ：□-D13-100@
6. フープの加工：地中梁接合部 H型
上記以外 溶接型またはスパイラル型

3	符 号	G 1	G 2		G 3	G 4	G 5	G 5A		G 6	G 7	G 8		G 9			G 11	G 11A
	位 置	全断面	両端	中央	全断面					全断面	全断面	両端	中央				全断面	
	断 面																	
	B × D	4 0 0 × 7 5 0	4 0 0 × 7 5 0		4 0 0 × 7 5 0					4 5 0 × 7 0 0	4 5 0 × 7 0 0	4 5 0 × 7 0 0					4 0 0 × 7 0 0	
	上 端 筋	4 - D 2 2	5 - D 2 2	4 - D 2 2	4 - D 2 2					8 - D 2 2	6 - D 2 2	6 - D 2 2	5 - D 2 2				3 - D 2 2	
	下 端 筋	3 - D 2 2	3 - D 2 2	3 - D 2 2	3 - D 2 2					4 - D 2 2	4 - D 2 2	4 - D 2 2	4 - D 2 2				3 - D 2 2	
	腹 筋	2 - D 1 0	2 - D 1 0		2 - D 1 0					2 - D 1 0	2 - D 1 0	2 - D 1 0					2 - D 1 0	
2	スターラップ	D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @					D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @					D 1 3 - 2 0 0 @	
	備 考																主筋定着長 4 0 d	
	位 置	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央		全断面	全断面
	断 面																	
	B × D	4 0 0 × 7 0 0	1 5 0 0 × 6 5 0		4 0 0 × 7 0 0	4 5 0 × 7 0 0	5 0 0 × 8 5 0	5 0 0 × 9 0 0		5 0 0 × 8 5 0		5 5 0 × 8 5 0		5 0 0 × 6 0 0			4 0 0 × 7 0 0	7 0 0 × 7 0 0
	上 端 筋	3 - D 2 2	1 1 - D 2 2		3 - D 2 2	4 - D 2 2	5 - D 2 2	8 - D 2 2	5 - D 2 2	8 - D 2 2	5 - D 2 2	5 - D 2 2	5 - D 2 2	8 - D 2 2	5 - D 2 2		3 - D 2 2	7 - D 2 2
	下 端 筋	3 - D 2 2	1 0 - D 2 2		3 - D 2 2	3 - D 2 2	5 - D 2 2	5 - D 2 2	5 - D 2 2	5 - D 2 2	5 - D 2 2	7 - D 2 2	9 - D 2 2	4 - D 2 2	4 - D 2 2		3 - D 2 2	7 - D 2 2
3	腹 筋	2 - D 1 0	2 - D 1 0		2 - D 1 0	2 - D 1 0	2 - D 1 0	4 - D 1 0		2 - D 1 0		2 - D 1 0		2 - D 1 0			2 - D 1 0	2 - D 1 0
	スターラップ	D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @			D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 1 5 0 @
	備 考		主筋定着長 4 0 d														主筋定着長 4 0 d	主筋定着長 4 0 d
	位 置	全断面	両端	中央	全断面					全断面		Y2端	中央、Y3端	全断面			全断面	全断面
	断 面																	
	B × D	4 0 0 × 7 0 0	5 5 0 × 7 5 0		4 0 0 × 7 0 0					4 0 0 × 7 0 0								
	上 端 筋	3 - D 2 2	9 - D 2 2		3 - D 2 2					3 - D 2 2								
2	下 端 筋	3 - D 2 2	5 - D 2 2		3 - D 2 2					3 - D 2 2								
	腹 筋	2 - D 1 0	2 - D 1 0		2 - D 1 0					2 - D 1 0								
	スターラップ	D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @					D 1 3 - 2 0 0 @								
	備 考		主筋定着長 4 0 d							主筋定着長 4 0 d								
	位 置	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面
	断 面																	
	B × D	7 0 0 × 1 2 3 0	7 0 0 × 1 6 5 0		4 0 0 × 7 0 0	4 0 0 × 1 6 5 0	4 5 0 × 1 5 5 0	4 0 0 × 9 0 0	5 5 0 × 8 5 0	5 5 0 × 9 0 0	6 5 0 × 9 0 0	7 0 0 × 9 0 0		4 5 0 × 8 0 0	5 5 0 × 1 2 3 0		4 0 0 × 7 0 0	
	上 端 筋	7 - D 2 2	7 - D 2 2		3 - D 2 2	8 - D 2 2	8 - D 2 2	4 - D 2 2	7 - D 2 2	8 - D 2 2	1 2 - D 2 2	1 0 - D 2 2	7 - D 2 2	7 - D 2 2	7 - D 2 2		6 - D 2 2	
	下 端 筋	7 - D 2 2	7 - D 2 2		3 - D 2 2	8 - D 2 2	7 - D 2 2	4 - D 2 2	4 - D 2 2	6 - D 2 2	7 - D 2 2	7 - D 2 2	1 0 - D 2 2	4 - D 2 2	7 - D 2 2		5 - D 2 2	
	腹 筋	6 - D 1 0	8 - D 1 0		2 - D 1 0	8 - D 1 0	8 - D 1 0	4 - D 1 0	2 - D 1 0	4 - D 1 0	4 - D 1 0	4 - D 1 0		2 - D 1 0	6 - D 1 0		2 - D 1 0	
	スターラップ	D 1 3 - 1 5 0 @	D 1 3 - 1 5 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 1 5 0 @	D 1 3 - 1 5 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @	
	備 考	主筋定着長 4 0 d	主筋定着長 4 0 d		主筋定着長 4 0 d	主筋定着長 4 0 d	主筋定着長 4 0 d	主筋定着長 4 0 d	主筋定着長 4 0 d	主筋定着長 4 0 d	主筋定着長 4 0 d	主筋定着長 4 0 d		主筋定着長 4 0 d	主筋定着長 4 0 d		主筋定着長 4 0 d	

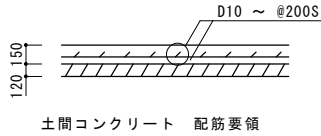
1. 本体コンクリート：F c = 3 0 N / m m ²
2. 鉄 筋：SD 2 9 5 A (D 1 0 ~ D 1 6)
SD 3 4 5 (D 1 9 ~ D 2 5)
3. 圧 接：D 1 9 以上ガス圧接の事
4. 巾止メ筋：D 1 0 - 1 0 0 0 @
5. 定着：主筋の柱への定着長さは、フックの有無に関わらず 4 0 d 以上とする

符 号	B 1		B 2		B 3		B 4		B 5		B 6	B 7	B 8	
位 置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断面	全断面	両端	中央
配 筋 図														
	3 5 0 × 6 5 0		4 0 0 × 6 5 0		3 5 0 × 6 9 0		4 5 0 × 6 9 0		5 5 0 × 6 0 0		3 0 0 × 1 2 3 0	2 5 0 × 4 5 0	4 5 0 × 6 5 0	
	6-D 2 2	4-D 2 2	8-D 2 2	5-D 2 2	6-D 2 2	4-D 2 2	7-D 2 2	4-D 2 2	6-D 2 2	3-D 2 2	3-D 2 2	3-D 1 9	7-D 2 2	5-D 2 2
	4-D 2 2	6-D 2 2	5-D 2 2	8-D 2 2	4-D 2 2	6-D 2 2	4-D 2 2	8-D 2 2	3-D 2 2	6-D 2 2	3-D 2 2	3-D 1 9	4-D 2 2	8-D 2 2
	D 1 0 - 2 0 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @		D 1 0 - 2 0 0 @		D 1 0 - 1 5 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @		D 1 0 - 2 0 0 @	D 1 0 - 2 0 0 @	D 1 3 - 2 0 0 @	
	2-D 1 3		2-D 1 3		2-D 1 3		2-D 1 3		2-D 1 3		4-D 1 3	2-D 1 3	2-D 1 3	
符 号	B 9		B 1 0		B 1 1		C B 1	C B 2						
位 置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断面	全断面						
配 筋 図														
	3 0 0 × 6 0 0		4 5 0 × 7 0 0		3 0 0 × 5 0 0		4 5 0 × 7 0 0	3 5 0 × 7 0 0						
	4-D 2 2	3-D 2 2	9-D 2 2	5-D 2 2	3-D 2 2	3-D 2 2	9-D 2 2	6-D 2 2						
	3-D 2 2	4-D 2 2	5-D 2 2	9-D 2 2	3-D 2 2	5-D 2 2	5-D 2 2	3-D 2 2						
	D 1 0 - 2 0 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @		D 1 0 - 2 0 0 @		D 1 3 - 2 0 0 @	D 1 0 - 2 0 0 @						
	2-D 1 3		2-D 1 3		2-D 1 3		2-D 1 3	2-D 1 3						

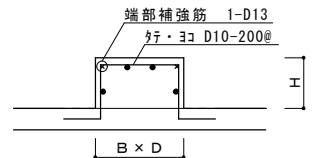
1. 本体コンクリート：F c = 3 0 N / mm²
2. 鉄 筋：S D 2 9 5 A (D 1 0 ~ D 1 6)
S D 3 4 5 (D 1 9 ~ D 2 5)
3. 圧 接：D 1 9 以上ガス圧接の事
4. 巾止メ筋：D 1 0 - 1 0 0 0 @
-
-

番 号	EW200	EW180	EW150		W250	W200	W180	W150	開口補強筋 配筋要領	スリット詳細図
配 筋 図										※既製品を用いても可 ※耐火・防水・遮音仕様とする。 ＝鉛直スリット＝ ＝水平スリット＝
タテ筋	D13-200@ (ダブル)	D13-200@ (ダブル)	D10-200@ (チドリ)		D13-200@ (ダブル)	D13-200@ (ダブル)	D10-200@ (ダブル)	D10-200@ (チドリ)		
ヨコ筋	D13-200@ (ダブル)	D13-200@ (ダブル)	D10-200@ (チドリ)		D13-200@ (ダブル)	D13-200@ (ダブル)	D10-200@ (ダブル)	D10-200@ (チドリ)		
補強筋	タテヨコ ナナメ	2-D16 2-D13	2-D16 2-D13		2-D16 2-D13	2-D16 2-D13	2-D13 2-D13	2-D13 2-D13		

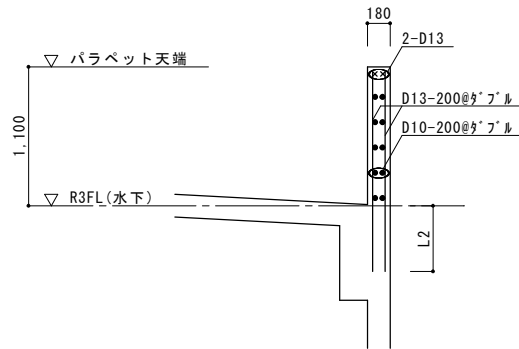
記 号	版 厚	位 置	短 辺 方 向 X			長 辺 方 向 Y			備 考
			端部 (A)	中央 (B)	柱列帯 全断面 (C, D)	端部 (C)	中央 (B)	柱列帯 全断面 (A, D)	
S 1	180	上端筋 下端筋	D13 D13、D10-200@			D13、D10-200@ D10-200@			モチアミ
S 2	180	上端筋 下端筋	D13、D10-200@ D10-200@			D13、D10-200@ D10-200@			モチアミ
S 3	180	上端筋 下端筋	D13 D10-200@			D13、D10-200@ D10-200@			モチアミ
S 4	180	上端筋 下端筋	D13 D13、D10-150@			D13、D10-200@ D10-200@			モチアミ
S 5	180	上端筋 下端筋	D13 D13、D10-150@			D13 D13、D10-200@			モチアミ
S 6	180	上端筋 下端筋	D13 D13、D10-150@			D13 D10-200@			モチアミ
CS 1	200	上端筋 下端筋	D13 D10-200@			D10-200@ D10-200@			片持ち
CS 2	180	上端筋 下端筋	D13、D10-200@ D10-200@			D10-200@ D10-200@			片持ち
CS 3	220 ~ 180	上端筋 下端筋	D13 D10-200@			D10-200@ D10-200@			片持ち
CS 4	250	上端筋 下端筋	D13 D13	-200@ -200@		D13 D13	-200@ -200@		片持ち
FS 1	250	上端筋 下端筋	D13 D13	-200@ -200@		D13 D13	-200@ -200@		モチアミ
FS 2	250	上端筋 下端筋	D16 D13	-150@ -150@		D16 D13	-200@ -200@		モチアミ



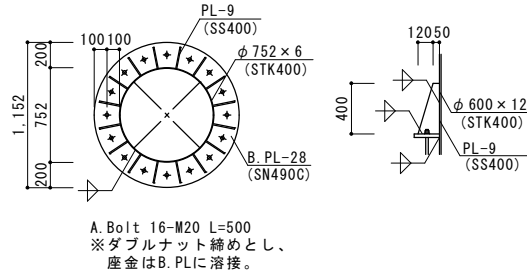
土間コンクリート 配筋要領



設備基礎 配筋要領

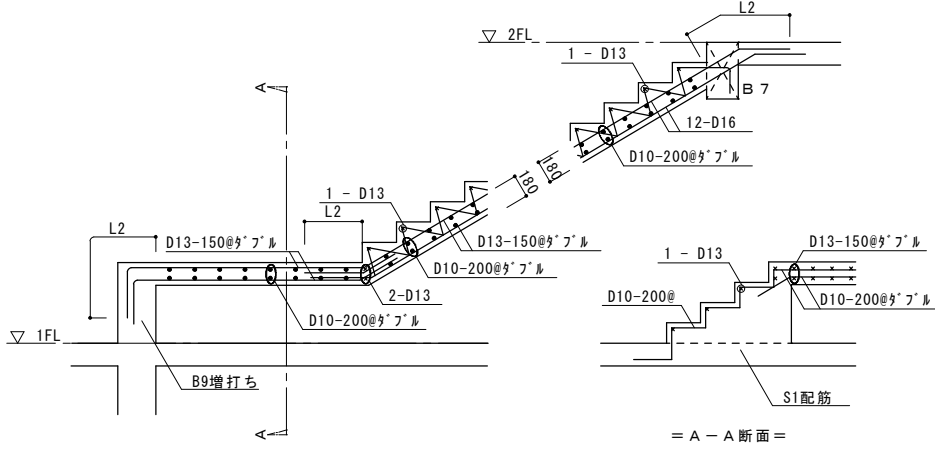


パラペット 配筋要領

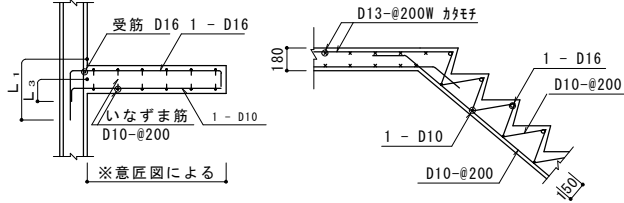


煙突柱脚詳細図

※煙突は溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

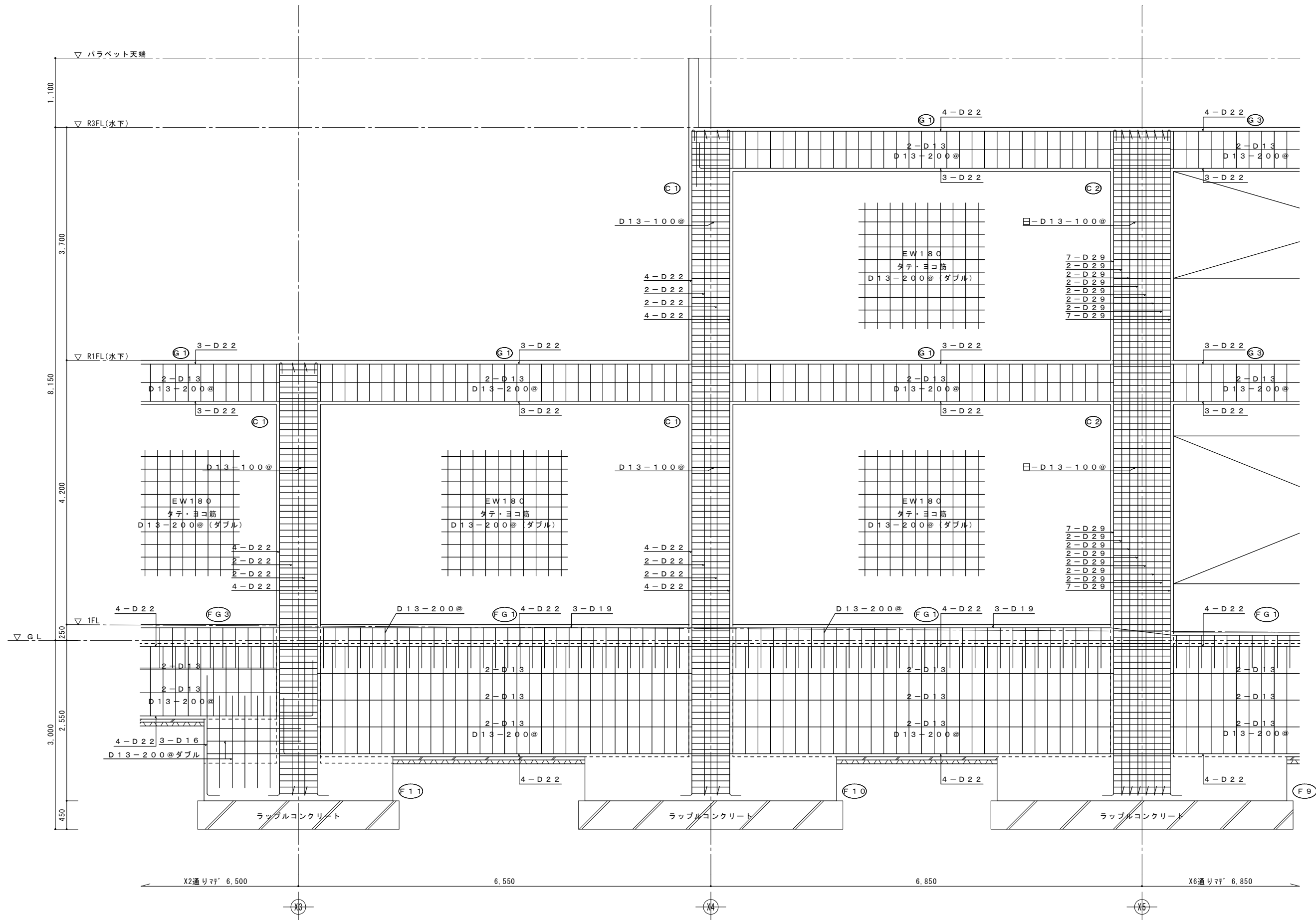


版階段 配筋要領



片持ち式階段 配筋要領

1. 本体コンクリート：F c = 30 N / mm²
2. 鉄 筋：SD295A (D10~D16)
SD345 (D19~D25)
3. 継 手：EW符号壁の重ね継手長さは、
40d以上とする
4. 巾止メ筋：D10-1000@



Y6通架構配筋図 1:30

プレストレストコンクリート工事特記仕様書

1 総則

1－1 適用の範囲

本工事は、設計図書並びに下記特記仕様書のほかに、

日本建築センター 『2009年度版プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』

日本建築学会 『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』

日本建築学会 『プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種P C）構造設計・施工指針・同解説』

日本建築学会 『建築工事標準仕様書・同解説鉄筋コンクリート工事（J A S S 5）』

の規定による。また、これらに示されていない事項については、監理者の指示による。

1－2 構造方式

本構造の方式は、鉄筋コンクリート造（R C造）とプレストレストコンクリート造（P C造）

とを組み合わせた「現場打ち一体式プレストレスト鉄筋コンクリート造」である。

1－3 プレストレス導入方式及び定着工法

プレストレス導入は、ポストテンション方式とする。

P C鋼線の定着工法は、日本建築センター「プレストレストコンクリート造設計施工指針」の規定に従い、

評定を受けたK T B工法又は評定を受けた同等以上の工法とする。

1－4 P C工事施工業者

P C専門業者の責任施工とする。

1－5 施工計画

施工の順序・方法・工程などの施工計画は工事着手前によく検討し、その計画書を監理者に

提出して承認を受ける。

2 材料

2－1 鉄 筋

鉄筋は、J I S G 3 1 1 2の規格品とする。

2－2 P C 鋼材

J I S G 3 5 3 6 P C鋼より線（S W P R 7 B）の規格品とする。

JISG3536の規格品とし、ポストテンション工法に使用する防食ストランドとして、
建築技術審査証明等の認定を取得したエポキシ全素線塗装鋼線、又は同等以上の品とする。

(S W P R 7 B 7本より12.7φストランド)						
タイプ	より線本数 n (本)	公称断面積 A (mm ²)	単位質量 w (kg/m)	引張荷重 P _u (kN)	降伏荷重 P _y (kN)	備考
1	1	98.71	0.774	183	156	
3	3	296.13	2.322	549	468	
7	5	493.55	3.870	915	780	
	6	592.26	4.644	1098	936	
	7	690.97	5.418	1281	1092	
8	8	789.68	6.192	1464	1248	
12	9	888.39	6.966	1647	1404	
	10	987.10	7.740	1830	1560	
	● 11	1085.81	8.514	2013	1716	R2階
	12	1184.52	9.288	2196	1872	

●印は、使用鋼材を示す。

2－3 セメント

J I S R 5 2 1 0ポルトランドセメントとする。

2－4 混和材料

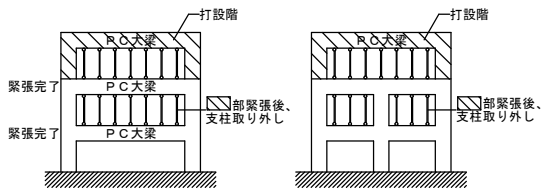
コンクリート中に表面活性剤などの混和材料を用いる場合、その品質・使用量については、

監理者の指示を受ける。

3 型枠

3－1 組立取り外し

- 1) 型枠は、プレストレス導入時のコンクリートのひずみを、拘束しないような構造とし、かつプレストレス導入に伴う反力分布の変化を、考慮して十分な耐力となるよう留意する。
- 2) コンクリート打ち込みの際セメントペーストが漏れることのないようにする。
- 3) P C造部分の型枠組み立て順序についてはP C鋼材の配置に影響され決定することが多いため十分注意する。（梁型枠の片側面または両側面の開放等）
- 4) P C大梁のスリーブ貫通は、監理者の指示による。
- 5) プレストレスを与える梁底の型枠の支柱はプレストレスの導入が完了するまで取り外し及び盛り換えを行なわない。
- 6) コンクリート打設階の荷重は、その階のプレストレス導入まで直下階2層で受ける。



4 配筋及び配線

4－1 鉄筋

- 1) 鉄筋は正確な配置をし、コンクリート打ちの際にくずれないように強固に組み立てを行なう。
- 2) スターラップは上部開放型を標準とする。

4－2 P C鋼材

- 1) 緊張の定着具はコンクリート打ち込み前に型枠の内側に正確強固に取り付けることを原則とする。
- 2) グラウト用孔及び排気管にペーストがつかまらないよう十分に養生をしておく。
- 3) P C鋼材を露天に放置して錆を出さないようにする。
- 4) P C鋼材の加工組み立てを行なう場合、加熱又は溶接を行なわない。
- 5) P C鋼材定着部の露出部はプレストレス導入後、すみやかに無収縮モルタル等で保護をする。
- 6) P C鋼材の配置後、コンクリート打ちに先だち監理者の検査を受ける。

5 コンクリート

5－1 コンクリートの設計基準強度は、下表による。

設計基準圧縮強度		30 N/mm ²	33 N/mm ²	36 N/mm ²
プレストレス導入時圧縮強度		27 N/mm ²	27 N/mm ²	30 N/mm ²
許容圧縮応力度	導入時	13.5 N/mm ²	14.85 N/mm ²	16.2 N/mm ²
	設計時	10.0 N/mm ²	11.0 N/mm ²	12.0 N/mm ²
引張強度	導入時	2.37 N/mm ²	2.46 N/mm ²	2.55 N/mm ²
	設計時	1.80 N/mm ²	1.90 N/mm ²	1.90 N/mm ²
許容引張応力度	導入時	0.79 N/mm ²	0.82 N/mm ²	0.85 N/mm ²
	設計時	0.79 N/mm ²	0.82 N/mm ²	0.85 N/mm ²
備考(使用箇所等)		R2階		

スランプ： 18cm以下とする。（流動化コンクリート含む。）

（流動化剤使用時のベースコンクリートは、12cm以下とする。）

5－2 適用範囲

P C大梁及びそれに接続する梁、スラブ、柱とする。

5－3 テストピース

コンクリート強度試験用供試体の採取、及び養生は次による。

	7日	プレストレス導入直前	28日	予備	合計
現場養生	3本	3本	3本	3本	12本
標準養生	—	—	3本	—	3本

5－4 コンクリート打設

- 1) P C鋼材・鉄筋・型枠及び定着具が移動や損傷しないようにする。
- 2) P C鋼材のケーブルシース内にセメントペーストが入らないようにする。
- 3) バイブレータは定着具及びケーブルシースに直接触れないようにする。
- 4) 定着具近傍は、プレストレス導入により局部応力が発生するのでコンクリートを特に入念に締め固める。
- 5) コンクリート打ち込みは、打設箇所出来る限り近づけて垂直に打ち込み「片押し打ち」は避ける。
- 6) 原則としてP C部におけるコンクリートの打ち継ぎは行なわない。

6 緊張

6－1 準備

緊張装置は前もってキャリブレーションを行なっておき、コンクリートが所定の強度に達した

ことを確認の上で監理者の指示によりプレストレス導入作業を行なう。

6－2 順序

プレストレス導入順序は、局部的に完了してしまうことなく、構造全体にわたって進める。

6－3 緊張力

現場におけるP C鋼材の導入時緊張力は、所定（断面リスト等に記載）の緊張力を原則監理者

立合いのもとに導入すること。

6－4 導入力の管理

- 1) P C鋼材は、特記及び設計図書による緊張力が導入されるように緊張する。
- 2) 緊張管理・引き止め線の決定方法は、日本建築学会『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』の31条に規定される方法によるものとする。

7 グラウト

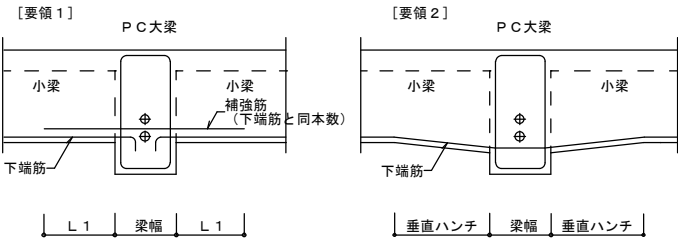
7－1 品質及び施工

- 1) グラウトの調合・施工方法及びチェックリストは、施工計画書の中に明記し、監理者の承諾を受ける。
- 2) グラウトの調合は、所定の流動性、圧縮強度が得られるように定める。
水セメント比は、45%以下とする。
- 3) グラウトの28日圧縮強度は、30N/mm²以上とする。
- 4) グラウトミキサーは、グラウトを練混ぜ規定時間内に十分練り混ぜることができる性能を持つこと。
- 5) グラウトポンプは、グラウトを徐々に、また空気が混入しないように圧送注入できるものとする。
- 6) グラウトの注入は、P C鋼材の緊張作業終了後、なるべく早期に行い、P C鋼材を包み、かつ排出口から一様なコンシステンシーのグラウトが十分流出するまで行うこと。

8 配筋

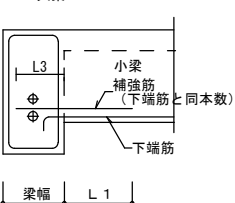
8－1 小梁の下端筋が、P Cケーブルにあたる場合

下図のいずれかの要領で対処する。



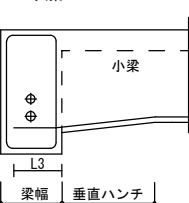
[要領3]

P C大梁



[要領4]

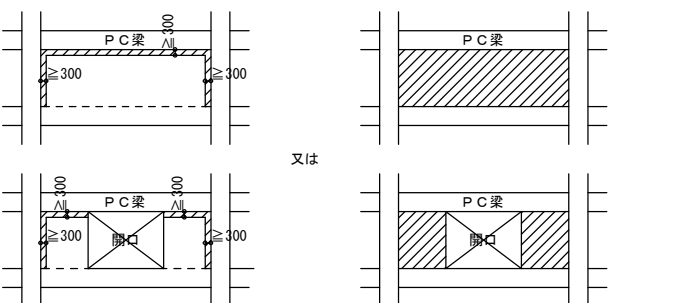
P C大梁



9 後打設壁の取り扱い例

9－1 P C梁を含む場合あるいはP C梁に平行な耐震壁・雑壁がある場合

監理者と協議の上、所定の軸圧縮力が導入されるよう以下のような配慮を原則とする。



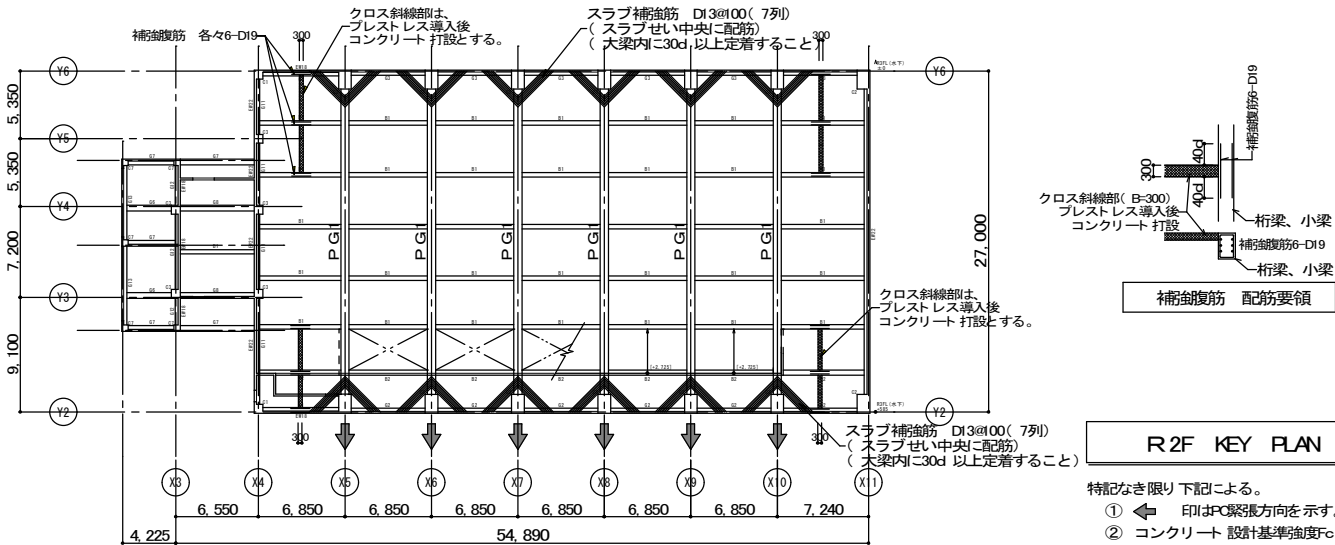
壁周囲スリットとする場合
（鉄筋は、ラップとする）

壁後打ちコンクリートとする場合
（梁緊張後コンクリート打設）

後打部分

特記なき限り
①コンクリート 強度 $F_c=30\text{N/mm}^2$ ④PC鋼材横配置は、監督員と協議の上、全PC鋼材図芯（偏芯）位置を部材核（梁幅×1/6）以内に配置変更してよい。
②幅止め筋はD10@600とする。 ⑤PC鋼材の配置及び緊張力導入以外の工事は建築工事とする。
③多段PC鋼材縦配置は、監督員と協議の上、全PC鋼材の図芯（偏芯）位置が変わらないよう配置変更してよい。

PC大梁リスト 1/40			
符 号	PG1		
位 置	Y2 端	中 央	Y6 端
R2階 断 面			
PC鋼材	8c-11本×12.7φストランド		
上端筋	4/2-D29	4/2-D29	4/2-D29
下端筋	4/2-D29	4/2-D29	4/2-D29
スターラップ	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100
腹 筋	10-D13	10-D13	10-D13
緊張力	導入時緊張状態において $P_k=125\text{kN/本} \times 11\text{本}=1375\text{kN}$ (クサビ戻り前)		

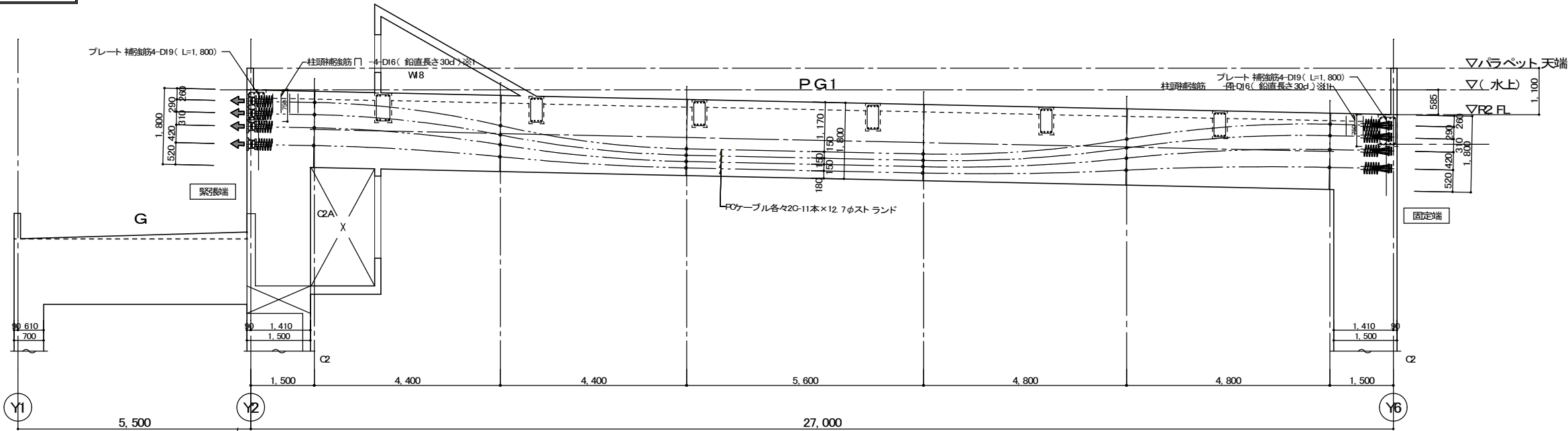


R2F KEY PLAN 1/300

- 特記なき限り下記による。
① 印はPC緊張方向を示す。
② コンクリート 設計基準強度 $F_c=30\text{N/mm}^2$ とする。
③ 壁はF壁を示す。

配線図 1/60

※1印は、この柱頭耐震筋（緊張・固定端）は、同じ箇所同等以上の補強を別途施す場合は、省略できるものとする。



PG1 緊張長端詳細図 1/20

※1印は、この柱頭耐震筋（緊張・固定端）は、同じ箇所同等以上の補強を別途施す場合は、省略できるものとする。

